

河野廣中ハ只今松方總理大臣カ豫算査定案ニ同意スル能ハサル旨ヲ述ヘラレタルモ豫算査定案ニ就テハ相當ノ手續ヲ以テ政府ニ同意ヲ求ムルモノナリ然ルニ未タ同意ヲ求メサルニ先ツテ不同意ヲ表スルハ是レ豫告タルニ過キス前年度ニ於テ此豫告アリタルニモ拘ラス遂ニ削減スルニ至リタルヲ以テ豫算委員長ノ言決シテ不當ニアラサル旨ヲ辯シタリ

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義ハ之ニ對シ左ノ演說ヲ爲セリ

諸君憲法第六十七條ニ於ケル同意ノコトニ關シ辯論アリタレトモ憲法第六十七條ニハ政府ノ同意ナクシテ廢除削減スルコトヲ得ストアリテ政府カ同意不同意ヲ表明スルニ當リ其時期ノ前後ヲ規定セルモノナシ井上角五郎ハ査定案ニ對シ其査定標準ノ確實ナラサル即チ廳費ノ如キ各省

ヲ通シ漠然一割ヲ減シ俸給ノ如キ四千圓ヲ漫然千五百圓ニ減シタル果シテ何ノ據ル所アツテ然ルカ本年度ニ於テハ前年度ノ非ヲ悔ヒ官制及俸給令ニ立入ラストナスモ明ラカニ俸給令ニ於テ總理大臣年俸八千圓各省大臣六千圓ト規定セルニモ拘ラス之ヲ六千圓五千圓ニ減額シ之ヲシモ俸給令ニ侵入セサルト云フヘキカ又國家發達ノ事業費ヲ減殺シ之ヲ民力休養ナリト云フニ至リテハ恰モ商賈カ資本ヲ減シテ節約シタリト云フニ異ナラス其愚笑フニ堪ヘタリト辯難シ終リニ左ノ動議ヲ提出シタルモ遂ニ否決セラレタリ

明治二十五年年度歲入歲出總豫算査定案竝ニ各特別會計豫算査定案ハ政府ノ已ニ不同意ヲ表シタルモノナレハ本院ハ之ヲ豫算總會ニ付スルニ先チ特別委員九名ヲ全院ニテ選舉シ政府ト協議セシメ適當ノ修正案ヲ調製セント欲ス

查定案賛成者ハ井上角五郎ノ反對論ニ對シ之ヲ辯駁セリ其大要ニ曰ク反對論者ハ查定方針ニ於テ廳費ノ減額ヲ一割ト爲シタルヲ漫然據ル處ナク方針ノ確立ヲ缺ケリト責ムルモ官制ニ於テ既ニ人員ヲ減シタル以上ハ隨テ廳費ニ其割合ヲ以テ凡ソ一割ヲ減スル何ノ不都合カ是レアラン又官制及俸給令ニ侵入セリトナスモ憲法第六十七條ノ末文ニ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除又ハ削減スルコトヲ得ストアリテ政府ノ同意アラハ之ヲ爲シ得ルモノニシテ絶對的ニ之カ費途ニ對シ議會カ容喙スル能ハサルモノニアラス故ニ議會ハ削減ノ必要ヲ認メハ之ヲ爲ス素ヨリ議會ノ職權ニシテ之ニ同意スルト否トハ一ニ政府ノ意思如何ニ在ルノミ何ソ之ヲ以テ我豫算議定權ヲ少縮スルノ理アラシヤト

查定案反對論者ニハ井上角五郎、五十嵐力助、粟谷品三等賛成論者ニハ河野

廣中、末廣重恭、岩崎万次郎等ニシテ遂ニ大體議ハ查定案ニ可決セリ

十二月十九日豫算案歳出經常部ヨリ逐項議ヲ開始シ同二十五日經常部ヲ終リ引續キ臨時部ヲ議了シ大抵查定案ニ決セリ此間各省大臣ハ其所管ニ對シ原案ヲ維持シ不當ノ削減ナル旨ヲ辯明シタリ就中海軍大臣子爵樺山資紀ハ查定案ノ削減ニ對シ大ニ我海軍勢力ノ消長ニ關スル旨ヲ説明シ其大要左ノ如シ

海軍省所管ニ付概略ノ意見ヲ陳述セン經常部ニ參拾四萬六千圓餘臨時部ニ五拾壹萬六千圓餘ノ節減ヲ加ヘラレタリ此五拾壹萬圓餘ノ金員中ニハ巡洋艦二千四百噸一艘報知艦千八百噸一艘及製鋼所設立ノ費用此兩件合計五百萬圓此金圓中二艘ノ軍艦製造費貳百七拾五萬圓製鋼所設立費貳百貳拾五萬圓兩件共ニ削除セラル、ニ至テハ其意ノアル所ヲ知ラス豫算委

員ハ何故ニ此ノ如ク必要ナル軍艦ノ製造費製鋼所費ヲ削減セラレタルカ
 此二艘ノ軍艦ヲ今年製造セサレハ明治三十年ニ至ル迄現在ノ軍艦五千噸
 ヲ減セサルヲ得ス之ヲ可ナリト爲シ削除セラレタルカ製鋼所ハ日本ニ於
 テ「スチール」ト申スモノ十分ナル成績ヲ有セス此製鋼ノ爲メ今日軍隊軍
 備ノ獨立ヲ保ツ能ハサルハ本大臣積年ノ痛苦ニ堪ヘサル所ナリ從來海軍
 ニ於テ製鋼所ト云フモノヲ設立シ獨逸ノ「クルシブル」ト云フ法ノ製鋼ヲ
 試製シタルニ好結果ヲ得タリ海軍ニ於テ使用スル陸軍ノ山砲即チ機關
 砲トシテ「ノルデンヘル」砲ト云フ大砲ト小銃ノ半ニ立ツ連發銃ノ如キハ
 今ノ製鋼所ニ於テ十分製造スルコトヲ得又「クルシブル」ト云フ鋼ノ性質
 ハ至テ緻密ニシテ大砲其他ノ器械ニ適當ナル性質ヲ有スルモ艦船ノ材
 料、大砲ノ材料、橋梁ノ材料、其他鐵道ノ如キ今日ハ鋼ヲ以テ大ナル事業ヲ

爲スニ付此「クルシブル」式ノ鋼ヲ以テ辨スル能ハス依テ海軍ノ材料ハ現
 今英佛其他ニ於テ購求セリ其材料ノ性質タル「シイメンズ」式ト云フ法ノ
 内ナリ即チ其一ツニ就テ十二噸或ハ八噸或ハ七噸ト云フ如キ多量ノ鋼ヲ
 製スルモノナリ今回海軍ニ於テ計畫スル製鋼所ノ主義ハ此「シイメン
 ズ」式ノ鋼ヲ製造スルニ在リ而シテ造砲ノ技術官、造船ノ技術官ハ悉ク完
 備シ今日如何ナル船ヲ製造セヨト云フモ毫モ不十分ナル點アラズ材料ア
 ル以上ハ如何ナル堅牢ナル船ニテモ製造スルコトヲ得然ルニ此材料ヲ製
 造スル技術官ハ未タ海軍省ニ於テ養成セス又之ヲ使用セサルヲ以テ官設
 ニ製鋼所ヲ設立スルハ甚タ不得策ナリ故ニ資力アル人民ニ屬スルヲ至當
 ト爲ス我政府ニ於テ此材料ノ出來サルハ日本ノ缺點ナルヲ以テ資力アル
 人民ニ斯ノ事業ヲ誘導セシモ半途ニシテ謝絶セリ是ニ於テ政府ハ今日之

ヲ如何トモスルコトヲ得ス若シ之ヲ優柔不斷ニセハ交通閉塞ノ場合ニ際シ如何ニシテ我海陸軍カ十分ニ兵器ヲ使用スルコトヲ得ルカ實ニ痛惜ニ堪ヘス是ニ於テ斷然政府ニ於テ此事業ニ著手スルノ議起リ第一其材料ヲ使用スルハ海軍ニ於テ十分ノ八ヲ占ムルヲ以テ此調査ニ關係スルコト、ナレリ先ツ今日造船科若クハ造船科自ラ其材料ヲ使用スレハ從テ其材料ノ性質ヲ明ラカニスルハ當然ナルカ故ニ一應調査シ深ク詮議ヲ盡シタル上政府ノ方針ヲ定ムヘシトノ意見ヲ海軍ヨリ内閣ニ提出シタル次第ナリ然ルニ此事タルヤ獨リ海軍ノミナラス即チ陸軍其他公衆一般ノ工事上必要ナル材料ナルヲ以テ十分政府ニ於テモ其詮議ヲ盡サスシテ若シ當初ニ於テ過チヲ生スレハ將來再ヒ之ヲ喚起スルコトヲ得サルカ故ニ十分學問アリ實驗アルモノヲ汎ク求メ之ヲ集合シ一ノ委員ヲ設ケ十分ニ調査セシ

メタルニ拙者カ提出シタル意見ト大同小異ナリ又技術者ニ於テ一人トシテ之ヲ製出スルコト能ハスト云フモノナシ政府ニ於テモ今之ヲ躊躇スル場合ニアラサルヲ以テ海軍ニ於テ之ヲ擔當スルコト、ナリ而シテ海軍ノ事業ト云フモノハ船ヲ造リ鎮守府ヲ作り其工事實ニ頻繁加之今又當工事ヲ擔當スルハ實ニ己レノ手足ノ運轉ヲ止メラル、ニ異ナルナク去リナカヲ官制上之ヲ陸軍省若クハ農商務省ニ嫁スルコトヲ得ス免ニ角海軍ハ材料ノ多量ヲ使用スルヲ以テ之ヲ擔當スルコト、ナリ之ヲ議場ニ提出シタル次第ナリ萬一海軍ノ艦船カ過チヲ生シ或ハ事ニ臨ミ一丸船腹ヲ傷ツクルアラハ如何シテ其穴ヲ塞クコトヲ得ルカ從來當局者カ刻苦シ稍完全ニ準備シ海軍ノ海軍タル勢力ヲ備フルニ際シ其材料ノ乏シキカ爲メ其機械アルモ悉ク無効ニ屬スルナルヘシ或ハ幾分カ平生豫備材料ヲ購求シ置カ

ハ可ナランカトノ説モアルヘシト雖此ノ如キハ日本軍備ノ獨立ヲ保ツコトヲ得ス然ハ彼ニ兵器ヲ借り彼ヨリ兵器ヲ與ヘラレ而シテ交戦スルト何ソ擇ハン若シ兵器ノ毀損スルアラハ何ヲ以テ之ニ代ヘン豈ニ危カラスマヤ此製鋼所ハ其組織上ト云ヒ其製造ノ目的ト云ヒ程度ト云ヒ皆其調査書ヲ豫算委員ニ提出セリ斯ノ如キ必要ナルモノヲ削除セラル、其理由ノアル所ヲ知ラス豫算委員ノ説明ニ海軍ハ常備艦多キカ爲メ不經濟ナリト云ヒ或ハ海軍ハ不整理ナリト云フ而シテ上奏案ヲ一見スルニ果シテ斯ノ如キヲ以テ今日ノ海軍ノ方針ニ雲霧ヲ蒙ラセリ右ハ今日海軍ノ戰術戰略ヲ基礎トシテ兵略ヲ立タルモノニアラス如何ナル兵學ヲ學ハレタル人ノ意見ナルカ其基ツク所ヲ知ラス而シテ海軍ノ定論ト云フモノハ各個意見ノ異ナルモノヲ集合シ其純良ナル所ヲ取捨シテ之ヲ定ムルモノ即チ海軍大臣

ノ定見ナリ人ト云フモノハ各性質ノ異ナルニ依リ十人寄レハ十人違フ又違フカ當然ニシテ其全局面ニ通シタル者ヨリ能ク聞クニアラサレハ一ヲ知テ二ヲ知ラサルモノ多シ海軍大臣ハ二十年來壹億貳千萬圓ノ金額ヲ費シ效績甚タ少ナク唯鎮守府ヲ設置シ船艦ヲ製造シタルノミト云フニ至テハ大ニ意見ヲ異ニセリ諸君明治三年ノ役ハ如何ナルモノナルカ明治七年ノ役ハ如何ナルモノナルカ國體ニ對シテ國權ヲ汚シ海軍ノ名譽ヲ損シタル事アルカ其事業ヲ察セスシテ徒ニ目前ノ壹億貳千萬圓ヲ使用シタリト云フハ本大臣ノ意外千萬ナリトスル所ナリ事ノ事實ヲ損ヒ事ノ虛妄ヲ連ネテ海軍大臣ヲ不信用ト云フハ却テ自ラ不信用ヲ招ク所以ニアラサルカ現政府ハ内外國家多難ノ艱難ヲ切抜ケ今日迄來リタル政府ナリ薩長政府トカ或ハ何政府トカ云フモ今日國家ノ安寧ヲ保チ四千萬ノ生靈ヲ安シタ

ルハ誰ノ功カナルカ今此軍艦製造費、此製鋼所設立費ヲ削除シタル理由ハ若シ前述ノ如クナレハ本大臣決シテ満足セサルナリ
十二月二十五日衆議院ハ解散ヲ命セラレ遂ニ明治二十五年年度歲計豫算ハ不成立ニ歸セリ

明治二十五年三月十七日勅令第二十八號ヲ以テ前年度豫算施行ノ件ヲ公布セラレタリ

第四章

第二期
帝國議會

明治二十四年度總豫算追加

第一節 衆議院

第二期帝國議會開會中政府ハ明治二十四年度歲入歲出總豫算追加案トシテ左ノ如ク提出セリ

第一 北米合衆國コロンブス世界博覽會費

第二 富山福岡兩縣下水害費補助

第三 岐阜愛知兩縣下震災費補助

明治二十四年度ノ歲入歲出總豫算案追加ニ計上スル所ハコロンブス世界博覽會費六拾參萬七百六拾六圓參拾五錢參厘富山福岡兩縣下水害費補助百參萬貳百八拾參圓拾錢四厘岐阜愛知兩縣下震災費補助參百貳拾四萬五千八百參拾七圓六拾參錢六厘合計四百九拾萬六千八百八拾七圓九錢參厘ナリ之カ

支出ニ對スル歳入ハ二十三年度ノ歳計剩餘ヲ繰入スルモノナリ
第一ハ明治二十四年十一月二十七日政府ヨリ至急議決ヲ望ム旨ノ要求ヲ付
シ衆議院ニ提出セリ衆議院ハ直ニ之ヲ豫算委員ニ付託シ其分科ノ一ナル第
六科ヲシテ之ヲ審査セシメタリ

本案ハ四箇年度ノ繼續費ニシテ其年割額左ノ如シ

コロンブス世界博覽會費

總額六拾參萬七百六拾六圓參拾五錢參厘

内

金五萬千四百九拾五圓五拾七錢

明治二十四年度

金參拾壹萬參千九拾八圓八拾九錢貳厘

明治二十五年

金貳拾四萬千五百參拾六圓八拾八錢壹厘

明治二十六年

金貳萬四千六百參拾五圓壹錢

明治二十七年

豫算委員會ニ於テ十二月三日繼續費ニ關シ一疑問ヲ生セリ即チ委員ノ或
一部ハ二十四年度二十五年度ニ要求書ヲ添附セルモ其他ハ之ヲ缺ケリ然
ルニ會計法第六條ニ曰ク總豫算ニハ帝國議會ノ參考ノ爲メニ左ノ文書ヲ
添附スヘシ「各省ノ豫定經費要求書但各項中各目ノ詳細ヲ記入スヘシ」ト
アルヲ以テ二十六年以降ハ之ヲ査定スルニ由ナシト爲セリ
大藏次官渡邊國武ハ之ニ對シ左ノ如ク辯解シタリ
政府ハ二十四年度分ヲ豫算トシテ提出シ二十五年以下三箇年分ヲ繼
續費議案トシテ二十四年度ト共ニ總額ノ議決ヲ求メタリ即チ憲法第六
十八條ノ繼續費トシテ協贊ヲ求ムルモノニシテ尙憲法第六十四條ニ據
リ年々其款項ニ對シ協贊ヲ求ムルモノトナス併シナカラ委員會ニ於テ

三四年ニ互ル豫算ヲ一時ニ議決スルコトヲ得スト假定スルモ猶本會議
ノ在ルアリ若シ本會議ニ於テ當會ト同一ノ議決ヲ便利ナリト爲サハ政
府ハ更ニ熟慮決心スル所アルヘシ

十二月四日豫算委員長松田正久ハ審査ノ經過及結果ヲ左ノ如ク報告セリ

本員ハ明治二十四年度歳入歳出總豫算案追加ニ關シ豫算委員審査ノ經過
及結果ヲ報告セン

豫算委員會ノ決定ヲ報告スルニ先ツテ爰ニ委員會ニ於テ起リタル一疑問
ヲ略述スヘシ則チ本案ハ委員ノ分科ナル第六科ニ於テ審査シ之ヲ總會ニ
報告シ其報告ニ依レハ本案ハ政府ヨリ四箇年度ノ繼續費トシテ提出シ二
十四年度及二十五年年度ニ於ケル要求書ニ明細書ヲ添付シ正式ヲ履メルモ
二十六年年度及二十七年度ニ於ケル要求書ニハ明細書ヲ添付セス故ニ第六

科ハ之ヲ査定スルコトヲ得スト爲セリ然ルニ豫算委員總會ニ於テハ此査
定報告ニ拘ハラス政府原案ヲ採用スルコトニ決セリ其理由トスル所ハ二
十六年度二十七年年度ニ於ケル要求書ニ明細書ノ添付セサルハ是繼續費自
然ノ性質ナリトシ且農商務省ヨリ参照トシテ豫算委員ニ参考書ヲ送付セ
ルヲ以テ之ヲ査定スルニ支障ナシト決定シ遂ニ豫算委員會ニ於テハ原案
ヲ可決シタリ

十二月五日本案ノ議事ヲ開クニ際シ農商務大臣陸奥宗光ハ左ノ演說ヲ爲セ
リ

諸君本院豫算委員會ニ於テ其審査ヲ經今日諸君ノ手ニ在ル所ノ二十四年
度追加豫算案ハ即チ來ル明治二十六年六月米國「イリノイス」州「シカゴ」府
ニ於テ開設スヘキコロンプス世界博覽會ニ我國ヨリ參同スル所ノ經費

豫算案ナリ抑コロンブス世界博覽會ニ我國ヨリ參同スヘキ費目ヲ追加豫算トシテ提出スヘシトハ第一議會ニ於テ貴衆兩院ヨリ懇篤ナル建議ヲ提出セラレ當時本大臣ハ政府ヲ代表シテ本院ニ出席シ諸君ノ希望ハ政府希望ト符合スルヲ以テ可成速ニ其豫算ヲ調製シ本院ニ提出センコトヲ計リタレトモ如何セン當時議會開場ノ期日頗ル切迫シテ其調製ヲ爲スノ暇ナキヲ以テ第二期議會ニ當リテハ劈頭第一之ヲ提出スヘキニ付本日同様ノ精神ヲ以テ贊成アラシコトヲ述ヘタリ果シテ今日諸君ノ協贊ヲ求ムルニ至リタルハ本大臣ノ最モ喜ブ所ナリ

今回ノ博覽會ニ就テ政府ニ於テ組織スル所ノ臨時博覽會事務局ナルモノハ從來我政府カ外國ノ博覽會ニ參同セシ時組織シタルモノトハ大ニ其體面ヲ異ニセリ則チ從來政府カ獨一ノ意思ヲ以テ萬般ノ計畫ヲ決行シタル

モ今回ハ勅令第五十二號ノ臨時博覽會官制ニ於テ總裁以下事務官ヲ除クノ外別ニ評議員ナルモノヲ設置セリ此評議員ハ官吏又ハ民間ノ實業家中最モ外國貿易ノ事ニ熟練シ殊ニ博覽會ノ事務ニ熟練ナル人ヲ選ヘリ乃チ諸般ノ計畫ハ所謂官民一致ノ意見ヲ以テ組織スルモノト云フヘシ而シテ本案ニ對シ速ニ諸君ノ協贊ヲ希望スル重要ノ理由一二ヲ申述ヘン

コロンブス博覽會ハ來ル明治二十六年五月一日ヨリ彼地ニ於テ開設スヘキモノナレトモ明年即チ二十五年一月一日ニ於テ博覽會ノ區域ヲ各國政府ニ交付スヘキ筈ナルヲ以テ我事務官モ一月中ニハ彼ノ地ニ至リテ其交付ヲ受クヘキ區域ノ廣狹又ハ位置ノ適否其他種々彼ノ國政府委員ト協議ヲ要スルカ故ニ我官吏ハ本月中旬若クハ下旬ニ橫濱出帆ノ船ニテ發程セサルヲ得ス此等ノ費用ハ本豫算ヨリ當ニ支出セサルヲ得サルヲ以テ

本豫算ハ一日モ早ク決議ニナランコトヲ希望ス是其理由トスル所ノ一ナ
 リ
 近來我國人民モ外國博覽會ニ於ケル經驗ヲ積ミ又其利益ヲ感セルヲ以テ
 今回ノ博覽會ニ於テモ頗ル出品ノ準備ヲ爲セル者アラシ去ナカラ所謂國
 光ヲ發揚シ國是ヲ擴張スルニ足ル貨物ヲ輸出セントスルニハ種々ノ工風
 ヲ案シ幾多ノ經費ヲ費シ永キ月日ヲ要スヘキヲ以テ今日ヨリ其計畫ニ著
 手スルモ既ニ遲キコトナキカヲ憂ヘリ世間大膽ニシテ有力ナル實業家中
 ニハ第一期議會ノ建議アルヲ以テ其計畫ヲ爲スモノアルモ普通一般ノ出
 品人ニ至リテハ免ニ角本案通過ノ上ニアラサレハ政府ヨリ如何ナル程度
 ヲ以テ保護サル、カ補充サル、カヲ知ラサルカ故ニ未タ安心シテ著手ス
 ルヲ得ス而シテ各商業會議所若クハ商工業者ノ團體ヨリモ速ニ本案ヲ議

會ニ提出スヘシトノ建議ヲ爲スモノ尠カラス此ノ如ク今日實業家カ奮テ
 彼ノ博覽會ニ參同セントスル者モ本案ノ運命如何ヲ顧ミテ躊躇セリ故ニ
 本案ノ運命ハ他日我國光ヲ發揚シ國是ヲ擴張スルノ點ニ於テ大ナル關係
 ヲ有シ一日後ルレハ彼等ノ準備モ一日後ル、ヲ以テ早ク滿天下ノ實業家
 ヲ安心セシメンコトヲ希望ス是其理由トスル所ノ二ナリ
 政府ノ出品即チ國家ノ出品是モ亦第一議會ノ開會以來著々其準備ヲ爲ス
 モ日本全國ヨリ廣ク其物品見本ヲ取集ムルハ決シテ咄嗟ニ辨スヘキモノ
 ニアラズ殊ニ新ニ製造スルモノニ至テハ尙更多クノ日子ヲ要スルヲ以テ
 今日政府ヨリ其契約ヲ締結スルトキハ直ニ其金ヲ支出セサルヘカラサル
 モ本案通過ノ後ニアラサレハ之ヲ爲ス能ハス則チ本案ノ一日モ速ニ決議
 アランコトヲ希望ス是其理由トスル所ノ三ナリ

其他斯ノ如キ事由ヲ擧クレハ夥多ナルモ本大臣ノ諸君ニ希望スル所ハ一日モ早ク本院ヲ通過シテ貴族院ニ廻付セラレ貴族院ニ於テモ同様ニ可決セラレ速ニ天下ニ公布シ外ハ米國政府竝ニ臣民ニ對シテ我帝國政府及臣民ノ好意ヲ表シ内ハ我國光ヲ發揚シ國事ヲ擴張セントスル熱心ナル滿天下ノ實業家ヲシテ安心セシムルコトノ希望ニ堪ヘサルナリ既ニ本案ニ付テハ第一議會ニ於テ諸君自ラ進ンテ之ヲ提出スヘシト建議セラレタル所ナルヲ以テ本案ヲ協賛セラル、コトハ信シテ疑ハサルモ均シク協賛セラル、ニ時日延引セハ前日ノ如ク政府ノ計畫ニ於テモ滿天下實業家ノ計畫ニ於テモ大ニ支障ヲ生スヘシ然ハ諸君ト政府ト恰モ同一ノ希望ヲ懷キタル精神ハ空シク水泡ニ歸シ所謂六日ノ菖蒲十日ノ菊ト爲ルヘシ願クハ本大臣精神ノ在ル所ヲ推察シ一日モ早ク議決アラシムコトヲ希望ス

角田眞平ハ修正說ヲ提出シタレトモ議題トナラス本案ハ殆ント全院一致ヲ以テ原案ヲ可決セリ

第二及第三ハ共ニ明治二十四年十二月九日政府ヨリ至急議決ヲ望ム旨ノ要求ヲ付シ衆議院ニ提出セリ衆議院ハ直ニ之ヲ豫算委員ニ付託シ其分科ノ一ナル第三科ヲシテ之ヲ審査セシメリ

十二月十九日政府ハ本案ニ對スル委員ノ報告ナキヲ以テ左ノ要求書ヲ送付セリ

本月九日ヲ以テ提出シタル明治二十四年度歳入歳出總豫算追加案富山福岡二縣下水害費補助及岐阜愛知二縣下土木費補助ノ件ハ緊急事件ナルヲ以テ至急議決アラシムコトヲ求メタリシニ提出以來已ニ十日ニ及フモ未タ委員ノ報告ニ接セス因テ委員ニ報告ヲ提出セシメ速ニ本會議ニ付シ議決セラレンコトヲ望ム

豫算委員會ニ於テ十二月二十三日主査工藤行幹ハ追加豫算案中第二ノ富山縣ニ係ル要求額六拾七萬六千參百五拾四圓九拾九錢ヲ五拾參萬貳千四百八拾壹圓四錢八厘ニ修正シ即チ拾四萬參千八百七拾參圓九拾四錢貳厘ヲ減少シ福岡縣ニ係ル要求額ハ原案ヲ可トシ第三ノ岐阜愛知兩縣ノ要求ハ其地方稅ニ堪ヘサルノ手續ヲ履マス即チ町村會若クハ縣會ニ關係セス只地方官ト内務省トノ間ニ於テ其費用ニ堪ヘサルヲ以テ國庫ヨリ支出スルト云フニ過キス是等不正當ナル手續ニ依レルヲ以テ之ヲ議スルコトヲ得ス因テ本案ヲ政府ニ返却スヘキモノト思考スル旨ヲ報告セリ

政府委員大藏次官渡邊國武ハ主査ヨリ岐阜愛知ノ追加豫算ニ付町村會府縣會等ノ手順ニ缺クル所アルヲ以テ政府ニ返付スヘシトノ陳述アリタレ

トモ素ヨリ憲法ヲ解釋シ憲法ヲ應用スルハ各執ル所アリ今日ノ場合政府ノ見ル所ヲ一應明言スルノ必要アリ政府ハ既ニ豫算ヲ提出シタル以上ハ之ニ向テ協贊セラル、カ若クハ修正セラル、カ或ハ否決セラル、カ何レカ一ニ居ル報道ニ接スルノ心得ナリト辯シタリ

第二ノ富山福岡兩縣水害費補助ハ原案ニ可決シ第三ノ岐阜愛知兩縣土木費補助ハ委員ノ報告、藤田孫平ノ半減說、宇都官平一ノ三分一減說及原案トモ皆少數ニシテ成立セス是ニ於テ中野武營ハ更ニ審査委員ヲ選舉センコトヲ發議シ別ニ異議ナキヲ以テ委員長松田正久ハ左ノ如ク五名ノ審査委員ヲ指名セリ

宇都官平一

藤田孫平

工藤行幹
中野武營
岡田良一郎

即日中野武營ハ審査委員ニ於テ調査シタル結果ヲ報告シテ曰ク岐阜縣ノ方ニ於テ修正額百參拾八萬七千四百參拾六圓ニシテ要求額ニ比シ六拾九萬參千七百拾八圓六拾七錢ヲ減シ愛知縣ノ方ニ於テ修正額七拾七萬六千四百五拾五圓ニシテ要求額ニ比シ參拾八萬八千貳百貳拾七圓九拾六錢六厘ヲ減セリ此ノ如ク修正シタル理由ハ三分二ヲ存シテ三分一ヲ減シ積算ノ結果圓以下端數ヲ四拾五入シ之ヲ切捨タリ素ヨリ政府ノ要求ハ實ニ根據ノ起算ナク十分信ヲ置クコトヲ得サルナリ大體ヨリ言ヘハ震災ノ甚シキ我々ニ於テモ十分感シ居ルモ苟モ國庫ヨリ支出スルニハ大ニ委員ニ於

テモ考察ヲ要セリ殊ニ地方ノ負擔ニ至テハ町村ニ於テ負擔ニ堪ヘラレサルノ一語ヲ以テ其全部ヲ國庫ヨリ補助スルハ到底爲シ得ヘカラサルコトナリ隨テ請求中ニ於テモ十分ニ調査ヲ遂クルニ於テハ其地方ノ負擔ニ於テ爲シ得ヘキモノ少ナカラサルヘシト思ヘリ併シ委員ハ我々ノ良心ニ問ヒ腦髓ニ感シタル上ニ於テ三分二ヲ以テ危急ニ充テ而シテ三分一ハ政府ノ要求ヨリ削リ之ヲ以テ現在今日ノ急ヲ救フ上ニ於テハ適當ナルコト、良心ニ信シタルニ外ナラサルナリト
武富時敏ハ否決説、石田貫之助ハ半減説ヲ提出シタルモ少數ニシテ消滅シ遂ニ委員ノ報告ニ可決セリ
十二月二十五日豫算委員長松田正久ハ第二及第三ノ兩案審査ノ經過及結果ヲ左ノ如ク報告セリ

富山福岡兩縣下水害補助及岐阜愛知兩縣下震災補助ノ兩案ハ本月十日豫算委員ニ接受シ其際二十五年年度豫算審議中直ニ當豫算委員ノ會議ヲ開クコトヲ得ス十二日豫算委員會ノ議決ヲ以テ本案ヲ豫算委員ノ第三科ニ付託シ調査セシムルコトニ決定シ爾來該科ニ於テ審査シタルニ岐阜愛知兩縣震災補助ハ算出ノ基礎不備不完ニシテ審査ノ標準ヲ立ルコトヲ得ス頗ル困難ヲ極メ二十三日主査ヨリ委員會ニ其調査ノ結果ヲ報告セリ是ニ於テ豫算委員ハ同日及二十四日ニ前後五回ノ會議ヲ開キ富山福岡兩縣水害補助費ハ原案ニ可決シ岐阜愛知震災補助費ハ意見數派ニ分レ孰レモ過半數ニ充タサルヲ以テ更ニ五名ノ特別委員ヲ選ミ再調査ヲ付託ス而シテ委員會ハ特別委員ノ報告ニ對シ過半數ノ同意ヲ以テ之ニ決定セリ即チ政府ノ要求額ヨリ三分ノ一ヲ減ス故ニ岐阜縣ニ係ル要求額ト修正額トノ比較

減ハ六拾九萬參千七百拾八圓六拾七錢愛知縣ニ係ル比較減ハ參拾八萬八千貳百貳拾七圓九拾六錢六厘トナルナリ

富山福岡兩縣ノ要求ハ何故ニ原案ニ決定シタルカト云ハ、福岡縣ハ二十二年富山縣ハ二十三年非常ノ水害ヲ被リ之カ爲メ前者ハ貳拾萬餘圓後者ハ四萬餘圓ノ縣債ヲ起シ本年復再ヒ非常ノ水害ヲ受ケ到底地方稅町村費ノ堪フル所ニアラス殊ニ地方稅町村費ハ俱ニ法律ノ制限ニ達セルヲ以テ國庫ノ補助ヲ要スルカ故ニ要求額ヲ是認シタル所以ナリ

岐阜愛知兩縣下ニ至テハ原案不完全ニシテ參百餘萬圓ノ積算出所ヲ調査スルニ一モ據ル處ナク隨テ委員中或ハ政府ニ返付スヘシト說キ或ハ政府ヨリ撤回セシムヘシト唱ヘ政府委員ニ之ヲ協議スルモ更ニ應セス而シテ兩地縣民ノ罹災慘況實ニ名狀スヘカラサルノミナラス猶如何ナル災害ノ

來ルヤモ測ルヘカヲサルヲ以テ罪ノ疑ハシキハ輕キニ若カストノ譬ノ如ク遂ニ原案ニ對シ三分ノ一ヲ減シ三分ノ二ヲ支給スルコトニ決定シ此三分一減ノ算出ハ原案ノ基礎漠然ナルニ由リ隨テ根據トスヘキ標準ナク先ツ三分ノ二ヲ支給セハ可ナラント議決シタル所以ナリ

此日衆議院ハ解散セラレ兩案遂ニ議決ニ至ラサリキ而シテ政府ハ翌二十六日勅令第二百四十七號ヲ以テ兩案ニ係ル土木費補助ヲ豫算外ニ支出シタリ

第二節 貴族院

明治二十四年十二月五日衆議院ハ明治二十四年度歳入歳出總豫算追加案(北米合衆國コロソニア世界博覽會費)ヲ貴族院ニ送付セリ是ヨリ先キ十一月二十七日貴族院ニ於テハ豫算委員ヲ選舉シ四十五名ヲ以テ之ヲ組織セリ乃チ十二月二日豫算委員ハ委員長及副委員長ノ選舉ヲ行ヒ其結果左ノ如シ

豫算委員長 子爵 谷 干 城

豫算副委員長 子爵 林 友 幸

豫算委員ハ衆議院ト同シク科ヲ別チ六ト爲シ以テ審査ノ分擔ヲ定メ分科擔當委員ノ選定ハ委員長及副委員長ニ委任シ各科ニ於テ主査一人ヲ互選シ其當任者左ノ如シ

主 査子爵由 利 公 正

伯爵大 原 重 朝

子爵關 博 直

演 尾 新

原 忠 順

林 宗 右 衛 門

第一科 歳 入

第二科

外務省所管
司法省所管

主查 櫻井伊兵衛
小畑美裕

伯爵廣橋賢光

子爵加納久宜

男爵島津珍彦

外山正一

古市公威

三木與吉郎

主查男爵青山貞

子爵立花種恭

子爵松平乘承

第三科

內務省所管
文部省所管

子爵青山幸宜

子爵酒井忠彰

岩村定高

瀧口吉良

主查子爵林友幸

子爵佐竹義理

男爵千家尊福

男爵菊池武臣

富田鐵之助

小幡篤次郎

山田 穰

第四科 大藏省所管

第五科

陸軍省所管
海軍省所管

主 查男爵小澤武雄

子爵大河内正質

子爵内藤政共

山川 浩

長谷川貞雄

桑田藤十郎

五十嵐敬止

主 查 九鬼隆一

第六科

農商務省所管
逓信省所管

子爵谷 干 城

田 中 芳 男

長 與 專 齋

菊 池 大 麓

久 保 田 眞 吾

渡 邊 甚 吉

十二月七日豫算委員ハ明治二十四年度總豫算追加案ヲ第六科ヲシテ審査セシメタリ

同日豫算委員長子爵谷干城ハ審査ノ結果ヲ左ノ如ク報告セリ

衆議院ヨリ本院ニ送付シタル明治二十四年度歳入歳出總豫算追加案ヲ調査スルニ

明治二十六年五月一日開會コロンプス世界博覽會費總額金六拾參萬七百六拾六圓參拾錢參厘ナリ此金額ハ二十四年度ヨリ二十七年度マテ四箇年間ニ分割シ繼續費トシテ支出スルモノニシテ各年度支出額ハ

明治二十四年度 金五萬千四百九拾五圓五拾七錢

同 二十五年度 金參拾壹萬參千九拾八圓八拾九錢貳厘

同 二十六年 金貳拾四萬千五百參拾六圓八拾八錢壹厘

同 二十七年 金貳萬四千六百參拾五圓壹錢

ナリ而シテ該博覽會ノ性質ヲ考察シテ其款項ヲ調査スルニ原案ノ如ク可決スヘキモノナリト議決ス

十二月八日本案ノ會議ヲ開キ農商務大臣陸奧宗光ハ左ノ演說ヲ爲セリ兼議院ニ

於ケル演說ニ重複ノ點ヲ省キ異ナル點ヲ摘要ス

諸君第一期帝國議會閉會ヲ告ケントスル時ニ際シ貴衆兩院ヨリ、コロンプス世界博覽會費ニ關スル懇篤ナル建議ヲ呈セラレ政府モ欣然同意ヲ表シ其豫算ヲ調製シ先ツ之ヲ衆議院ニ提出セリ然ルニ衆議院ハ殆ント全會一致ヲ以テ之ヲ可決シ本院ニ回付セリ
諸君ヨ我帝國ト米國トノ間ニ存スル所ノ外交上ノ關係ハ三十年來如何ニ親密ナリシカ彼ノ馬關償金八拾餘萬弗ノ巨額ヲ無條件ニテ我政府ニ返付シタルハ何レノ邦國ナルカ外交上種ヤノ事件ニ關シ常ニ我政府ニ好意ヲ表シ我人民ニ親切ヲ呈スルハ何レノ邦國ナルカ又我官民ニシテ或ハ公命ヲ帶ヒ或ハ私用ノ爲メ彼ノ國へ渡航シ或ハ滯留シ或ハ通行スルニ際シ恰モ珍客ヲ獲タルカ如ク之ヲ優遇シ之ヲ款待スルハ何レノ邦國ナルカ我國貿易上重要物産タル生絲及茶ノ殆ト全部ヲ需要スルハ何レノ邦國ナルカ

我美術工藝品ヲ愛翫シ之ヲ裝飾トシ若シ之ヲ缺カハ耻トシ争テ之ヲ購入スルハ何レノ邦國ナルカ是レ實ニ北米合衆國ナリ
 今回ノ博覽會ヲ好機トシ彼我兩國ノ間ニ在ル所ノ外交上ノ關係ヲ一層緊密ニシ其貿易ヲ一層盛大ナラシムヘシ是レ則チ諸君第一期ニ於テ政府ニ建議セラレタル精神ニ外ナラサルナリ

本來我邦人民ハ博覽會ノ如キモノニハ經驗甚タ少ナク今ヲ去ルコト二十年前明治六年澳國ノ維也納博覽會ニ名古屋ノ金鯨鉢、淺草ノ大提燈ヲ出品シタルカ如キ實ニ笑フニ堪ヘタリ明治十五年佛國博覽會ニハ我政府人民トモ大ニ經驗ヲ積ムニ至レリ而シテ今回ノ博覽會ニ人民ノ出品凡八拾萬餘圓計リ之ヲ明治六年ニ比セハ我人民カ外國博覽會ニ對シ頗ル熱心ニシテ且ツ其利益ヲ感得シタルノ證據ナリトス

本案ノ至急決議ヲ望ムハ官民トモニ夫々準備ヲ要スルヲ以テ一日モ早く天下ニ公布シ外ハ米國ニ對シ我政府及人民ノ好意ヲ表明シ内ハ滿天下ノ熱心ナル實業家ニ安心ヲ與ヘ其準備ニ著手セシメント欲ス諸君願クハ速ニ協贊ノ實ヲ擧ラレ決議アラシコトヲ希望ス

本案ハ異議ナク可決議了セラレタリ

十二月九日議長ハ左ノ報告ヲ爲セリ

昨八日本院ニ於テ可決シタル明治二十四年度歳入歳出總豫算追加案ハ同日直ニ内閣總理大臣ヲ經由シテ裁可ヲ奏請シ及可決ノ旨衆議院ニ通知シタリ

此日明治二十四年度歳入歳出總豫算追加ハ公布セラレタリ

第五章 震災費事後承諾ヲ求ムルノ件

第一節 衆議院

第二期帝國議會開會中政府ハ憲法第六十四條第二項ニ依リ左ノ事後承諾ヲ求メタリ

岐阜愛知兩縣下震災救濟及河川堤防工事費豫算外支出ノ件

一金貳百貳拾五萬圓 明治二十四年度豫算外支出額

内

金百五拾萬圓 岐阜縣震災救濟及河川堤防工事費

金七拾五萬圓 愛知縣同上

本案ハ明治二十四年十一月二十六日政府ヨリ衆議院ニ提出セリ即チ政府カ
曩ニ緊急勅令ヲ以テ左ノ如ク支出シタルモノナリ

朕岐阜愛知二縣下震災地方人民ノ非常ナル不幸ヲ救済スルカ爲メニ又破
壞セル河川堤防ノ工事緊急ヲ要スルカ爲メニ内閣ノ上奏ニ依リ茲ニ臨時
支出ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年十一月十一日

内閣總理大臣兼大藏大臣 伯爵松方正義
文 部 大 臣 伯爵大木喬任
外 務 大 臣 子爵榎本武揚
遞 信 大 臣 伯爵後藤象二郎
海 軍 大 臣 子爵樺山資紀
農 商 務 大 臣 陸奥宗光

陸 軍 大 臣 子爵高島綱之助
司 法 大 臣 子爵田中不二麻呂
内 務 大 臣 子爵品川彌二郎

勅令第二百五號

一金百五拾萬圓

岐 阜 縣

一金七拾五萬圓

愛 知 縣

右金額ハ非常要急ノ需用タルニ依リ明治二十三年度歲計剩餘金ヨリ支出
ス

十一月三十日本案ノ會議ヲ開クニ際シ内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正
義ハ左ノ演說ヲ爲セリ

去月二十八日岐阜愛知兩縣下ノ震災ハ實ニ非常ノ事變ニシテ其慘況ハ誠

ニ言フニ忍ロス本大臣ハ忝クモ 聖旨ヲ奉シ直チニ實地ヲ巡檢シタルニ
其慘狀ハ又豫想ノ外ニ出テ數萬ノ家屋ハ瞬時ニ破壊シ或ハ兄弟五人ニシ
テ四人ハ死シ一人ハ發狂セリ或ハ肉傷レ骨摧ケ或ハ一家擧テ壓死シ且火
災各所ニ起リ家屋財產ハ烏有ニ歸シ或ハ倒家ノ下偶々生命ヲ保チ得タル
者モ之カ爲メ燒死シ其臭氣鼻ヲ衝ク父子兄弟幾萬トナク相離散シ悲哀號
泣ノ形況今猶ホ耳朶ニ殘リ恍トシテ目前ニ見ルカ如シ兩縣下ノ死傷凡二
萬五千二百四十八名現ニ岐阜市ニ於テ毎日焚出ノ救助ヲ受クル者凡ソ一
萬四千人大垣市ニ於テ一萬三千人又家屋ノ全部ヲ破壊シ或ハ燒失シ又ハ
其一部ヲ破壊シ兩縣下ノ總數十一萬九千二十六戶外ニ家屋財產ノ埋沒或
ハ燒失又ハ堤防道路橋梁ノ破損等蓋シ計フヘカラス
愛知縣下堤防ノ破損ハ木曾庄内ノ兩川ニテ五十餘里ノ長キニ亘リ岐阜縣

下ハ掛斐、長良、木曾ノ三川ニテ凡ソ八十里其他用惡水路、溜池、堤防等ノ破
損ハ殆ント枚擧ニ遑アラズ
右慘狀ト損害トニ對シ備荒儲蓄ノ許ス限り之ヲ利用シタルハ勿論ノコト
ニシテ 皇室ノ恩賜金ヲ始メ内外人民ノ義捐金等モ尠カラスト雖今回ノ
如キ非常ノ需用ニ應シ難キヤ誠ニ明白ニシテ今茲ニ地方稅ノ增課ヲ謀ラ
ンカ目下窮民ノ多キ幾萬ナルヲ知ラス到底多額ノ賦稅ニ堪ヘス若シ在再
時日ヲ經過セハ其結果如何ナルヘキカ政府ハ時機ヲ失ハス國庫剩餘金中
ヨリ岐阜縣下ニ百五拾萬圓愛知縣下ニ七拾五萬圓支出シタリ乃チ負傷者
ヲ治療シ或ハ流離無告ノ窮民ヲ救濟シ或ハ最緊急ノ土木工事ヲ起シ多數
ノ人夫ヲ要スルヲ以テ窮民糊口ノ途ヲ得飢餓ヲ免ル、等其間接ノ利益蓋
シ僅少ナリトセス今技師ノ見ル所ニ據レハ岐阜縣下ノ堤防破壞八十里ノ

修復ニ要スル土量ハ凡ソ二百萬坪一坪人夫三人ヲ要スルトセハ總計六百萬人又今日ヨリ明年三月下旬マテ實際作業シ得ヘキ日數ヲ九十日トスレハ毎日人夫七萬ヲ要スヘキナリ

借臨時支出ノ手續ヲ終ヘ時日ヲ遷サス救濟ノ用ニ充テ去ル十八日ヨリ岐阜縣ハ十一箇所愛知縣ハ八箇所ノ工事ニ著手シタル報告ニ接セリ

政府ハ憲法第六十四條第二項ニ依リ帝國議會ニ提出シ諸君ノ承諾ヲ求ム此臨時支出ハ不幸ナル兩縣人民ノ生命財產ヲ保護スルニ於テ一日モ忽ニスヘカラサル實際ノ必要ニ迫ラレタルモノナレハ諸君モ充分此旨ヲ諒シテ承諾ヲ與ヘラル、コト本大臣ノ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ

植木枝盛ハ特別委員十八名ヲ各部ニ於テ投票シ全體ニ就テ通算シ以テ本案ノ審査ヲ付託スヘシトノ動議ヲ提出シ可決セラレタリ十二月一日其選舉ヲ

行ヒ同二日委員長及理事ヲ互選シ其結果左ノ如シ

- | | | | |
|-------|-------|----|-------|
| 委員長 | 河野廣中 | 理事 | 大津淳一郎 |
| 伊藤熊夫 | 島田三郎 | | |
| 川越進 | 植木枝盛 | | |
| 眞中忠直 | 松田正久 | | |
| 鈴木昌司 | 山田東次 | | |
| 高田早苗 | 板倉中 | | |
| 三崎龜之助 | 新井毫 | | |
| 犬養毅 | 東尾平太郎 | | |
| 伊藤大八 | 菊地侃二 | | |

十二月五日議長中島信行ハ本案ニ對シ政府ヨリ左ノ如ク緊急事件トシテ議

決ヲ望ムトノ通牒ニ接シタル旨ヲ報告セリ

前月二十六日ヲ以テ提出シタル岐阜愛知二縣下震災救済及河川堤防工事
費豫算外支出ノ件ハ緊急事件トシテ議決アラシコトヲ望ム

別冊岐阜愛知二縣知事ノ上申參考ニ供ス

明治二十四年十二月四日

(別冊)

曩キニ本官等ノ上申ニ依リ兩縣下震災ニ罹レル人民ノ特別救済竝ニ緊
急工事ノ爲メ勅令第二百五號ヲ以テ下付セラレタル金額ハ本官等ニ於
テ早速夫々著手致シ焦眉ノ急ニ應シ竝ニ水害ノ急防手當ヲ怠ラス事業
緒ニ就クノ順序ニ有之候處此際縣治上最モ注意スヘキハ窮困産ヲ失ヘ
ルノ人民未タ安堵ノ思ヲ爲サス浮説流言或ハ其間ニ行ハレ易キニ在リ

然ルニ右金額ハ政府ヨリ議院ニ提出シ承諾ヲ求ムルノ手順ト相成候處
本官等ニ於テハ固ヨリ右金額ニ付キ將來ニ決シテ異動ヲ生セサルコト
ト信シ候ヘトモ罹災人民ニ於テハ此際或ハ浮説ニ惑ハサレ人心疑懼ヲ
抱クノ恐レ有之縣治上憂慮一方ナラス一日モ早ク人心安靜ニ歸シ候様
冀望ニ堪ヘス右ノ事情不取敢及上申置候也

明治二十四年十二月四日

愛知縣知事 岩村 高俊
岐阜縣知事 小崎 利準

内閣總理大臣伯爵松方正義殿

内務大臣子爵品川彌二郎殿

十二月七日今井磯一郎ハ政府カ此ノ如ク至急議決ヲ要求スルモ特別審査委

員ヨリ何等ノ報告ナキヲ以テ本員ハ特別委員ニ向ツテ速カニ其審査ヲ結了セラレンコトヲ望ム岐阜愛知兩縣下震災ノ概況ハ過日總理大臣ノ演説及各種新聞ノ報道ニ於テ其慘狀ヲ知了セリ而シテ被害地ノ人民ハ憲法ノ正條如何ヲ顧ミス又會計ノ手續等モ辨ヘス唯議會ハ如何ナルヤト日夜苦慮シ實ニ片時モ早ク之ヲ議決シ被害者ヲ安堵セシメンコト議會德義上決シテ忽ニスヘカラサルカ故ニ特別委員ハ速ニ審査ノ結果ヲ報道アラシコトヲ希望スト請求シタルニ大津淳一郎ハ此勅令ニ關シ政府委員ニ質問シタルモ書類ナキヲ以テ答辯スルコトヲ得サルカ故ニ報告ノ時日ヲ遷延セリ今井君カ云ハルル如ク震災地ノ人民此勅令承諾如何ヲ議會ニ於テ決定セサレハ不安心ナリト是更ニ事理ニ適セサルナリ畢竟委員報告ノ延引スルハ政府委員答辯ノ遅延ナルカ爲メナリト辯駁セリ

十二月八日審査特別委員長河野廣中ハ委員會ノ經過ヲ左ノ如ク報告セリ勅令二百五號岐阜愛知震災事件委員會ノ經過ヲ報道セン委員ノ當選ハ本月一日其翌日委員長及理事ヲ互選シタルモ此二日ヨリ五日マテノ日限ハ勅令第四十六號大津事件ノ委員會アリテ此間雙方ノ委員ヲ兼ネタルモナルヲ以テ此委員會ヲ開コトヲ得ス五日ニ至リ政府委員ニ質疑ヲ爲シ調査ノ書類ヲ要スルヲ以テ之カ送付ヲ求メタルニ漸ク昨日廻付セリ而シテ總理大臣ヨリ緊急事件トシテ要求セラレタルモ委員會ニ於テハ貳百貳拾五萬圓ノ金額未タ縣地ニ廻ラストノ説アリ政府委員ハ國庫ヲ離レ工事其他十分著手セリト説明セリ然ルニ緊急事件ニ關シ岐阜愛知兩縣知事ノ上申書ニ依レハ其順序ヲ經タルヲ以テ更ニ支障ナシト思考ス元來本案ハ憲法ニ大ナル關係ヲ有スルヲ以テ委員ニ於テモ大ニ注意シ鄭寧ニ審査スル

次第ニシテ唯徒ラニ時日ヲ遷延スルカ如キハ斷シテ之レナク今日マテノ
議事經過ヲ大略報道ス

十二月十日矢野才治郎外十七名ハ三十二名ノ賛成ヲ得テ岐阜愛知兩縣震災
ニ關シ左ノ建議案ヲ提出シ且矢野才治郎ハ本日ノ議事日程ヲ變更シテ建議
案ヲ先ニ議センコトノ動議ヲ提起シタルモ否決セラレ隨テ建議案遂ニ議題
ニ上ラサリキ

岐阜愛知兩縣震災ニ付建議案

一岐阜愛知兩縣ノ震災タルヤ其區域廣クシテ且慘酷ヲ極メタルコトハ今
更喋々ヲ要セス而シテ政府ハ臨時緊急ヲ要スル臨時救濟及ヒ河川堤防
費ハ既ニ勅令第二百五號ヲ以テ臨時支出ノ處分ヲナシ今ヤ憲法第六十
四條第二項ニ依リ議院ノ承諾ヲ求メラレタリ而シテ其承諾ト否トハ斷

ク措キ尙ホ海岸及小河川堤防用懸水路溜池堰埭樋管土砂扞止道路橋梁
等目下難差置復舊ノ工事ニ對シ相當ノ費用ヲ國庫ヨリ支給セサルヲ得
サルコト不得止モノト思考ス

一罹災地方農工商ハ其生存スルモノモ僅ニ身ヲ以テ免カレタルニ過キス
シテ生産ヲ盪盡シ回復ノ望殆ント期スヘカラス如斯ニシテ過キ往カハ
土荒レ民散スルノ慘況ニ陷ラントス此等ニ向テ前途國利ヲ保存シ民牛
ヲ安スルノ計畫ナカル可カラスト思考ス

右二項ハ震災後四十餘日ヲ經過シタル今日ニ在テ其方法ナカルヘカラス
ト信ス故ニ宜シク速ニ其豫算及方法ヲ提出シテ議會ノ協賛ヲ求め地方人
民ヲシテ一日モ早ク安靜ナラシムル様取計ハレンコトヲ望ム

○

豫算委員會ニ於テ十二月二十二日伊藤大八ハ本案決議ノ順序ニ關シ左ノ意見案ヲ提出ス

第一 政府カ岐阜愛知震災ニ付二十三年度ノ剩餘金ヲ支出シタルコトハ憲法違反ナルヤ否ヤ

第二 其支出シタル所爲ニ付承諾ヲ與フヘキモノナルヤ否ヤ

第三 承諾スヘカラサルモノトスレハ其理由如何即チ違憲ノ事ト事實

トヲ以テ其理由ト爲スカ將タ違憲ノミヲ以テ其理由ト爲スカ

犬養毅ハ第二ノ「承諾ヲ與フヘキモノナルヤ」ノ下ニ「將タ返付スヘキモノナルヤ」ノ十二字ヲ追加スルノ動議ヲ提出シ異議ナク可決セラレタリ十二月二十四日意見案ハ逐條審議ヲ終リ左ノ如ク決議セリ

第一 憲法違反ト認ムルコト

第二 承諾ヲ與ヘサルコト

第三 違憲ノ理由ニ事實ヲ加ヘサルコト

犬養毅ノ發議ニ依リ右決議ノ理由ヲ以テ議院ニ報告スルノ文案ヲ委員長及理事ニ囑托ス

十二月二十五日衆議院ハ解散セラレタリ乃チ各大臣連署ノ奏議左ノ如シ

臣等謹テ惟フニ立憲ノ美ハ一ニ行政立法兩部ノ相俱ニ和衷協同シテ以テ國家ノ利益ト臣民ノ幸福ヲ増進スルニ在リ憲法ノ施行方ニ初步ニ屬スルニ當リ不幸ニシテ機關ノ調熟ヲ缺キ視テ勢力競争ノ具ト爲シ其國運ヲ發達スルニ於テ殆ト慎重ノ顧念ヲ缺クモノ、如シ

昨年豫算會議ニ於テ議會ハ實ニ巨大ノ減額ヲ唱ヘタリ政府ハ殊ニ立憲施行ノ第一期ナルニ注意シ大局ヲ顧念スルカ爲メニ專ラ讓歩ヲ主トシ歲出

六百四拾五萬餘圓ヲ節減シ更ニ行政組織ノ上改正ヲ施シテ仍省減ヲ行ヒ
 タリ而シテ二十五年度ノ豫算ハ實ニ二十四年度豫算節減ノ餘ヲ嗣キ更ニ
 及フ所ノ節減ヲ加ヘ國家ノ生存行政組織ノ繼續ヲ維持スル爲メ必要ノ限
 リニ於テ編製シタリ

又新設事業ニ在テハ殊ニ製鋼所設立ノ如キ軍艦製造ノ如キ治水事業ノ如
 キ其他監獄費國庫支辨案ノ如キ鐵道買收法案ノ如キ皆國防上及國家經濟
 上缺ク可カラサルノ急務トス然ルニ議會ハ擧ケテ之ヲ排斥スルノ意ヲ表
 シタリ之ニ加フルニ憲法第六十七條ニ掲ケタル國家必要ノ費目ニ對シ政
 府力屢、憲法上ノ權力ニ依リ不同意ヲ表明シタルニ拘ラス其廢除削減ノ
 所見ヲ固執セリ

此ノ如ク年々削減ヲ以テ相依リテ例ヲ爲サハ行政機關ハ殆ト其運轉ヲ妨

ケラレ維新以來施政ノ方針タル進步ノ事業及國家ノ經濟ハ遞次退縮ニ傾
 キ而シテ後止マントス

彼ノ岐阜愛知兩縣ノ非常ナル災害ヲ救濟シ破壞セル堤防工事費ニ充ル爲
 メニ政府ノ斷行セシ豫算外ノ支出承諾ノ件ハ政府ヨリ緊急ノ議決ヲ要求
 シタルニ提出ノ後既ニ數旬ヲ經ルモ未タ議事ニ上ラス富山福岡兩縣水害
 費補助及岐阜愛知兩縣土木費補助追加豫算ノ件モ亦之ヲ緩慢ニ付シタリ
 開會以來衆議院ノ經過此ノ如シ臣等躬重責ニ當リ國事ヲ以テ是ノ如キ議
 會ノ贊畫ニ託スルハ國家ノ昌運臣民ノ福利ト相容レサルコトヲ信ス臣等
 誠惶誠恐茲ニ仰テ

陛下ノ憲法第七條ニ據リ衆議院ヲ解散シ續テ選舉法第三十條ニ依リ新ニ
 議員ヲ召集シタマハンコトヲ謹テ上奏シ敢テ

陛下ノ裁可ヲ祈ル

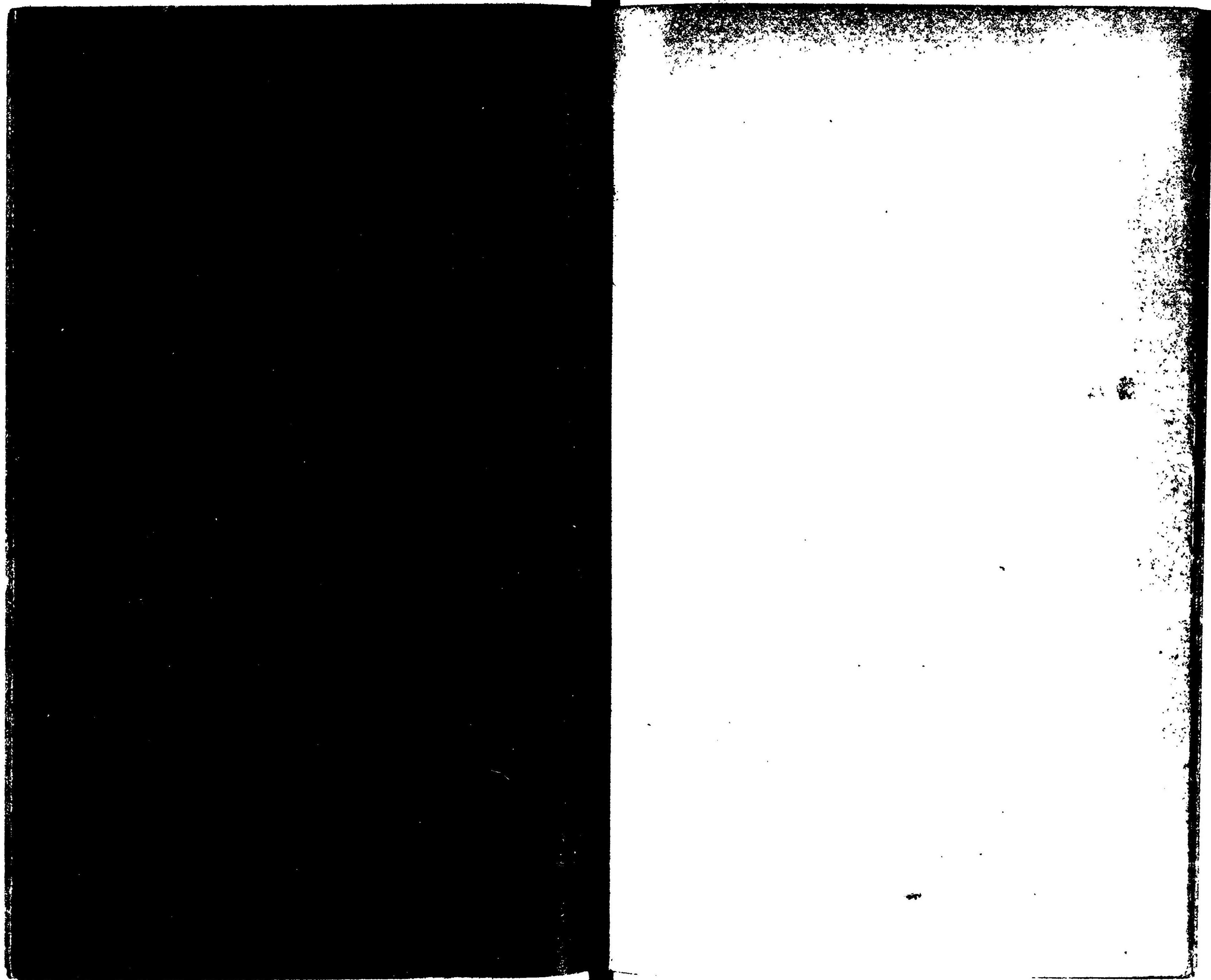
明治二十四年十二月二十五日

内閣總理大臣兼大藏大臣	伯爵松方正義
文部大臣	伯爵大木喬任
外務大臣	子爵榎本武揚
遞信大臣	伯爵後藤象二郎
海軍大臣	子爵樺山資紀
農商務大臣	陸奥宗光
陸軍大臣	子爵高島鞆之助
司法大臣	子爵田中不二麻呂
内務大臣	子爵品川彌二郎

明治二十八年五月廿四日印刷
 明治二十八年五月廿五日發行

印刷者 大藏省
 印刷局

9
402



9
402

帝國歲計豫算史

第三卷

大蔵省主計局

目録

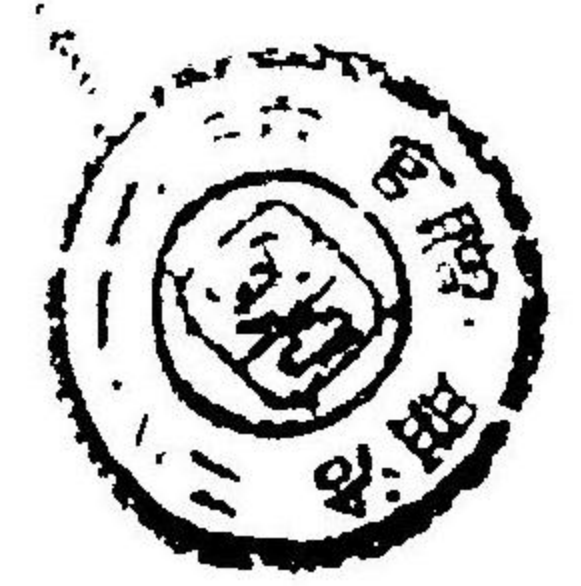
第六章 第三回帝國議會明治二十五年年度歲計豫算追加

第一節 衆議院及貴族院

第七章 震災竝水害費事後承諾ヲ求ムルノ件

第二節 衆議院

第二節 貴族院



索引

第六章 第三回帝國議會	一
第一節 衆議院及貴族院	同
一 明治二十五年年度歲計豫算追加案	同
一 二十五年年度歲計豫算追加等ニ關シ衆議院ニ於テ爲シタル內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義ノ演說	三
一 衆議院豫算委員ノ選舉及豫算審査ノ分擔	七
一 衆議院豫算委員會	十二
一 衆議院豫算委員長ノ報告	十四
一 豫算案査定案金額比較表	十五
一 衆議院ニ於ケル豫算追加案ノ會議	十六

- 一 衆議院ニ於ケル陸軍省所管繼續費ニ關スル動議尾崎行雄提出 十七丁
- 一同上湯淺治郎提出 十八丁
- 一 貴族院ニ於ケル豫算委員ノ選舉 二十二丁
- 一 貴族院豫算委員會 二十七丁
- 一 貴族院豫算委員長ノ報告 二十八丁
- 一 貴族院ニ於ケル豫算追加案ノ會議 三十丁
- 一 衆議院ニ於ケル貴族院修正豫算追加案討議延期說曾福荒助提出 三十二丁
- 一 衆議院ニ於ケル貴族院修正豫算追加案ヲ受領セサルノ動議山田東次提出 同丁

- 一 貴族院ニ於ケル衆議院ヨリ返付セル豫算追加案ヲ受領セサルノ動議子爵谷干城提出 三十三丁
- 一 貴族院ニ於ケル豫算議決權ニ關シ上裁ヲ仰クノ動議三浦安提出 三十四丁
- 一 貴族院ニ於ケル豫算議決權ニ關スル上奏案起草特別委員ノ選舉 同丁
- 一 貴族院ニ於ケル豫算議決權ニ關スル上奏案 三十六丁
- 一 豫算議決權ニ關スル勅諭 三十八丁
- 一 衆議院ニ於ケル收賄審查ノ動議稻垣示提出 三十九丁
- 一 衆議院ニ於ケル收賄審查特別委員ノ選舉 同丁
- 一 衆議院ニ於ケル收賄審查特別委員長ノ報告 四十一丁

- 一 同上事件動議提出者ヲ懲罰委員ニ付スルノ動議 井上角五郎提出 四十一丁
- 一 衆議院ニ於ケル貴族院修正ニ係ル豫算追加案ノ會議 四十二丁
- 一 衆議院ニ於ケル兩院協議委員ノ選舉 同 丁
- 一 貴族院ニ於ケル兩院協議委員ノ選舉 四十四丁
- 一 兩院協議會 四十五丁
- 一 兩院協議會ニ於ケル折衷說 衆議院協議委員山田東次提出 同 丁
- 一 貴族院衆議院ニ於ケル兩院協議會議長ノ報告 四十六丁
- 一 衆議院ニ於ケル兩院協議會可決ニ係ル豫算追加案ノ會議 同 丁

- 一 貴族院ニ於ケル兩院協議會可決ニ係ル豫算追加案ノ會議 同 丁
- 一 豫算追加案ノ通過竝ニ要求額修正額ノ比較 同 丁
- 一 豫算追加公布 四十七丁
- 一 豫算追加公布 四十九丁
- 一 第七章 震災竝ニ水害費事後承諾ヲ求ムルノ件 同 丁
- 一 第一節 衆議院 同 丁
- 一 岐阜愛知二縣震災救濟及河川堤防工事費豫算外支出 同 丁
- 一 明治二十四年勅令第二百五號 五十丁
- 一 震災費事後承諾ノ件ニ關スル内務大臣伯爵副島種臣ノ演說 五十二丁
- 一 震災費審査特別委員ノ選舉 同 丁

- 一 震災費ニ關シ政府ヘノ質問書齋藤珪次外二名提出 五十三丁
- 一 震災費ニ關スル審査特別委員會 五十六丁
- 一 震災費ニ關スル審査特別委員會ノ決議 五十八丁
- 一 震災費ニ關シ齋藤珪次外二名提出ノ質問ニ對スル政府ノ答辯書 六十三丁
- 一 震災費ニ關スル内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義ノ演說 六十八丁
- 一 震災費ニ關シ政府委員大藏次官渡邊國武ノ辯論 七十丁
- 一 震災費ニ對スル政府ノ措置ハ憲法ニ適スルヤ否決定ノ動議角利助提出 七十一丁
- 一 震災費ニ關スル承諾 七十二丁

- 一 愛知岐阜富山福岡四縣土木費補助豫算外支出 同丁
 - 一 明治二十四年勅令第二百四十七號 同丁
 - 一 水害費事後承諾ノ件ニ關スル内務大臣伯爵副島種臣ノ演說 七十四丁
 - 一 水害費審査特別委員ノ選舉 同丁
 - 一 水害費ニ關スル委員會 七十六丁
 - 一 水害費ニ關スル特別委員長ノ報告 同丁
 - 一 水害費ニ關スル承諾 七十七丁
- 第二節 貴族院
- 一 震災費ニ關スル政府委員大藏次官渡邊國武ノ演說 同丁
 - 一 震災費ニ關スル審査特別委員ノ選舉 七十八丁

一 震災費ニ關スル審査特別委員會	七十九丁
一 震災費ニ關スル承諾	同 丁
一 水害費ニ關スル審査付託	八十丁
一 水害費ニ關スル審査特別委員會	同 丁
一 水害費ニ關スル承諾	同 丁

十

第六章

第三回 帝國議會

明治二十五年年度歲計豫算追加

第一節 衆議院及貴族院

明治二十五年五月七日政府ハ明治二十五年年度歲入歲出總豫算追加案及參照

書ヲ左ノ如ク衆議院ニ提出セリ

(一) 明治二十五年年度歲入歲出總豫算追加案

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルモノ

明治二十五年年度大阪砲兵工廠特別會計歲入歲出豫算追加案

參照書

明治二十五年年度各省豫定經費追加要求書

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スノ要求書

明治二十五年年度陸軍省所管大阪砲兵工廠作業歲入歲出豫定追加計算

書

五月十四日政府ハ又左ノ豫算追加案及參照書ヲ衆議院ニ提出セリ

(三)明治二十五年年度歲入歲出總豫算追加案(遞信省所管
火災新營費)

參照書

明治二十五年年度遞信省所管豫定經費追加要求書

明治二十五年年度總豫算追加案ニ計上スル所ハ(一)ニ於テ貳百七拾八萬貳千六百九拾貳圓八拾八錢參厘(二)ニ於テ參萬貳千四百貳拾圓合計貳百八拾壹萬五千百拾貳圓八拾八錢參厘ナリ之カ支出ニ對スル歲入ハ二十三、二十四兩年度ノ歲計剩餘ヲ繰入スルモノナリ

五月九日內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義ハ衆議院ニ於テ左ノ演說ヲ爲セリ

諸君今回帝國議會ニ提出セル議案ハ事後承諾ヲ求ムルノ件、府縣監獄費、國庫支辨法案、鐵道公債法案、私設鐵道買收法案、二十五年年度豫算追加案等ナリ

客年十月愛知岐阜兩縣下震災ニ係ル救濟竝ニ河川堤防工事費豫算外支出ト其後右兩縣竝ニ富山福岡二縣ノ土木費補助豫算外支出トハ併セテ議會ノ承諾ヲ求ム

明治二十四年勅令第四十六號モ亦憲法ノ命スル所ニ從ヒ議會ニ提出ス監獄費ハ明治十三年以前ハ國庫ノ負擔ニ屬セシモ當時財政整理ノ必要上之ヲ地方稅ノ支辨ニ移シタレトモ財政ノ稍整理セル今日ニ於テハ從前ノ如ク國庫ノ支辨ニ復スルヲ當然ナリトス而シテ之カ爲メ人民ノ負擔ヲ弛ヘ生産力ヲ發達シ又地方政務ノ改良ヲ促ス等利益ノ及フ所決シテ少小ニ

アラサルナリ

次ニ鐵道、鐵道ノ經濟上軍事上重大ナル關係ヲ有シ文明ノ利器、富強ノ要具タルコトハ世人一般ノ認識スル所ニシテ政府ハ疾クニ鐵道ノ布設セサルヘカラサルヲ看破シ必要線路ノ工事ヲ起シ又ハ民設ヲ許可シ其進歩ヲ圖リタルモ創業以來幾多ノ星霜ヲ經テ今日ニ至リ僅ニ千六百哩ニ過キス殊ニ現在私設會社中ニハ往々豫定ノ如ク工事ニ著手セサルモノアリ又半途ニ工事ヲ中止シタルモノアリ又既ニ工事ヲ完成セル會社ト雖モ將來益諸般ノ改良ヲ加ヘ經濟上軍事上完全ナル鐵道ノ效用ヲ爲サシムルハ到底望ムヘキニアラス

既往ノ實驗ニ徵シ現在ノ形勢ニ照シ之ヲ考フルニ鐵道事業タル專ラ營利ヲ主眼トスル私設會社ニ放任セハ國家經濟上軍事上公共ノ利益ヲ進ムル

コト甚タ困難ナリ是レ政府カ鐵道ヲ國有トシテ大ニ其擴張完成ヲ圖ルノ計畫ヲ定メタル所以ナリ此計畫ヲ實施スルニハ私設鐵道ヲ買收シ十分ニ線路ヲ連絡シ又其管理ヲ統一セサルヘカラス畢竟私設鐵道ノ買收ハ鐵道擴張ニ伴フ必要ノ手段ナリ

二十五年年度ノ豫算ハ勅令第二十八號ヲ以テ憲法第七十一條ニ據リ前年度豫算ノ施行ヲ命セラレタリ仍テ目下緊急ノ事業ニ屬スル經費ハ追加豫算トシテ特ニ議會ノ協贊ヲ求ム其重要ナルモノハ專ラ國防ニ關スルモノニシテ即チ新ニ軍艦ヲ製造シテ海軍ノ勢力ヲ維持スルコト製鋼所ヲ設置シテ造船造砲其他軍事上必需ノ鋼材ヲ製出スルコト東京灣砲臺建築ノ年期ヲ繰上ケ帝都ノ關門タル港灣防禦ノ速成ヲ期スルコト連發銃竝ニ綿火藥ヲ製造シテ兵器彈藥ノ改良ヲ施行スルコト等ニシテ最モ必要ノ經費ナ

抑國防ノ一日モ忽セニスヘカラサルハ多言ヲ要セス唯之ヲ充實スルニ莫大ノ經費ヲ要シ財政ノ許サ、ルアリテ十分ノ計畫ヲ立ツルコトヲ得サルハ頗ル遺憾トスル所ナリ然レトモ以上述べタルモノハ急務中ノ急務ニシテ一日モ早ク之ヲ施行セサルヘカラス

諸君今日宇内各國カ互ニ富強ヲ競ヒ雄長ヲ争フ有様ハ諸君ノ熟知セラル所ナリ我國ハ各國ニ對シテ如何ナル境遇ニ在ルカ又如何ナル關係ヲ有スルカノ問題ニ就テハ今茲ニ本大臣カ明言セスト雖モ滿場ノ諸君ト感ヲ同フスルコト、信セリ故ニ政府ハ今日ノ時勢ニ必要ナル事業ハ國家經濟ナリ國防ナリ出來得ル限り經營シテ我國力ヲ發達シ我國權ヲ擴張スル目的ナリ諸君ノ公明ナル協賛ヲ得テ此進歩ノ事業ヲ成就シ相共ニ國家ノ隆

昌ヲ圖リ國民ノ幸福ヲ進ムルコトハ本大臣ノ切望スル所ナリ

衆議院ハ是ヨリ先キ五月七日各部ヨリ五名ノ豫算委員ヲ選舉シ四十五名ヲ以テ豫算委員ヲ組織セリ

五月九日豫算委員ハ委員長及理事ノ選舉ヲ行フ其結果左ノ如シ

豫算委員長 佐藤 昌 藏

理 事 井上角五郎

理 事 岡崎運兵衛

豫算委員ハ豫算査定ノ方針ヲ定ムルカ爲メ委員長ノ指名ニ任シ豫算査定
審査方針委員三名ヲ左ノ如ク選舉セリ

河野 廣 中

大岡 育 造

五月十日豫算委員ハ科ヲ分チテ四ト爲シ審査ノ分擔ヲ定ムル左ノ如シ
(各特別會計豫算豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルモノ等ハ款項ノ種類ニヨリ各科ニ分擔セリ)

和 田 彦 次 郎

主 查 湯 淺 治 郎

永 井 松 右 衛 門

足 立 孫 六

大 須 賀 庸 之 助

立 石 寬 司

鹽 田 興 造

中 村 彌 六

千 葉 禎 太 郎

第 一 科

大 藏 省 所 管

司 法 省 所 管

農 商 務 省 所 管

遞 信 省 所 管

第 二 科

內 務 省 所 管

文 部 省 所 管

主 查

五 十 村 良 行

植 木 志 澄

改 野 耕 三

今 井 磯 一 郎

玉 田 金 三 郎

高 木 郁 助

伊 藤 祐 賢

太 田 實

植 田 清 一 郎

村 野 山 人

佐 々 木 正 藏

第三科 陸軍省所管

主查

川真田德三郎
河野廣中
天春文衛
和田彦次郎
川原茂輔
肥田景之
工藤卓爾
高須峯造
大坪利晋
丸尾文六
高梨哲四郎

十

第四科 海軍省所管

主查

黒川修三
福田久松
若原觀瑞
大岡育造
柏田盛文
片岡直濫
岡崎運兵衛
内藤利八
那保宗
尾崎行雄
井上角五郎

千葉胤昌
山田東次
佐々田懋

此日豫算査定審査方針委員ハ豫算委員會ニ於テ其調査ノ結果ヲ左ノ如ク報告シ多少ノ議論アリタレトモ之ヲ可決シ各科ハ此方針ニ據リ豫算ノ審査ヲ始メタリ

豫算査定審査方針

- 一 諸般ノ費目ハ充分ニ調査シ努メテ節減ヲ主トスルコト
- 一 海陸軍備其他事業費目ニ係ルモノハ其事業ノ要否ヲ考ヘ徒ラニ削減ヲ圖ルヘカラサルコト
- 一 繼續事業竝ニ其線上等ハ國庫ノ財源ノ許ス限ニ於テ之ヲ爲スコ

五月十六日
ヨリ二十二
日迄七日間
停會

五月二十六日豫算委員會ニ於テ湯淺治郎ハ政府カ二十五年度豫算不成立ナルニ追加豫算トシテ議會ニ提出シタル所ヲ見ルニ其性質目的及金高ニ於テモ二十五年度豫算ト同一ニシテ毫モ變更ナキモノアリ豫算不成立ノ場合ナルニ都合宜シキモノハ之ヲ提出シ然ラサルモノハ之ヲ提出セス實ニ其當ヲ得サルヲ以テ本會ハ審査スヘキ義務ナキモノトシ之ヲ排除セントノ動議ヲ提出シタリ

井上角五郎ハ之ニ反對シ二十五年度ノ豫算ハ不成立ナリシヲ以テ憲法ノ明文ニ依リ二十四年度ノ豫算ヲ執行スルヲ以テ二十五年度ノ豫算ハ已ニ成立セルモノナリ其豫算ノ款項外ニ於テ又ハ目下ノ必要ニ於テ到底行政事務及事業ノ進歩ヲ妨クル場合ニ於テ追加豫算ヲ出シタルハ本年ヲ以テ

始トセス已ニ第一期第二期ニ於テモ之ヲ提出シ議會ハ之ヲ議決セリ決シテ不當ノコトニアラスト論シ動議ハ遂ニ否決セラレタリ
 五月二十三日ヨリ二十六日迄引續キ豫算委員會ヲ開キ議論頗ル紛々タリシカ其結果ノ主ナルモノハ海軍省所管第六款製鋼所設立費及文部省所管第二款震災豫防調査會設備費ノ削除ナリトス
 五月二十六日豫算委員長佐藤昌藏ハ豫算審査ノ經過及結果ヲ報告スルノ大要左ノ如シ

今回政府提出ノ二十五年度追加豫算ハ歳入出共ニ貳百八拾壹萬五千百拾貳圓八拾八錢參厘ナリ委員會ニ於テハ十分之ヲ調査シ大凡九拾五萬參千九百四拾五圓八拾貳錢六厘ヲ削減シ此外特別會計竝ニ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スモノニ於テモ之ヲ審査シ共ニ相當ノ修正ヲ加ヘタ

リ
 各省ノ修繕費ハ相當ニ節減ヲ加ヘ或ハ一割五分或ハ二割ニモ及ヒ或ハ殆ント半額ヲ削減シタルモノアリ軍艦、砲臺、其他事業費目ハ悉ク之ヲ存シ唯其冗員ト冗費トヲ削リタリ然ルニ製鋼所ニ至リテハ原料物調査ノ完カラサルヨリ之ヲ廢除セリ是レ即チ査定案大體ノ説明ナリトス其他ノ事ニ至リテハ漸次各科ノ主査ヨリ詳細説明セン
 今試ミニ査定案ヲ豫算案(一、二)ニ對照スレハ左ノ如シ

要 求 額	査 定 額	比 較	増 減
歳入臨時部	二、八一五、一一二、八八三	一、八六一、一六七、〇五七	減
歳出臨時部	二、八一五、一一二、八八三	一、八六一、一六七、〇五七	減
		九五三、九四五、八二六	

備考 査定案ニ於テ削減シタル重要ナルモノハ陸軍省所管兵器彈藥

費、海軍省所管軍艦製造費、製鋼所設立費、文部省所管震災豫防
調査會設備費等ナリ

五月二十八日豫算追加案ノ大體議ヲ開キ中野武營尾崎行雄等ノ質問政府委員大藏次官渡邊國武ノ答辯アリテ直チニ甲號議案ノ逐項議ニ移リ内務省所管第三款及第十五款第三項第十六款第二項竝ニ大藏省所管第三款第三項第四項ハ原案ニ其他ノ款項ハ總テ査定案ニ可決セリ

陸軍省所管ニ於テ尾崎行雄ハ繼續費ハ年割額ニ付協贊ヲ求メ更ニ又毎年豫算ニ編入シテ協贊ヲ求ムルハ從來ノ手續トス故ニ二十五年豫算案ニモ第一款砲臺建築費ハ既定ノ繼續費ニ於ケル二十五年年度年割額六萬參千圓ヲ合シ年割額増加ノ協贊ヲ求メタルニ今此追加案ニハ六萬參千圓ヲ引去レリ第三款兵器彈藥費ニ於ケルモ亦然リ是レ政府ハ豫算ノ編制ヲ一變セルモノニ

シテ憲法第六十四條ニ適合スルヤ否ヤニ疑ナキ能ハサル旨ヲ述ヘ左ノ動議ヲ提出セリ

特別委員ヲ設ケテ陸軍省所管第一款第三款ノ審査ヲ付託シ本日ヨリ四日ヲ期シテ報告セシムヘシ其選舉ハ各部ニ於テ之ヲ爲シ全體ニ付テ其結果ヲ通算スヘシ

政府委員大藏次官渡邊國武ハ尾崎君ハ憲法第六十四條ニ背クト云フハ憲法ニ於ケル或ル條項ヲ見テ或ル條項ヲ見損セラレタルモノナリ又政府ハ豫算成立ノ時一タヒ繼續費豫算ノ協贊ヲ經ハ再ヒ之ヲ提出セスト云フニ非ラス惟僅有ナル豫算不成立ノ場合ニアリテハ前年度ノ豫算ニ依ルカ爲メ苟モ憲法第六十八條カ有效ナル以上ハ一度ノ協贊ヲ經テ成立セルナリ故ニ斷然施行セリ是レ六萬參千圓等追加豫算ニ省ケル所以ナリトノ趣旨ニテ辯明セ

是ヨリ多少ノ討論アリ末松謙澄島田三郎ハ贊成三崎龜之助渡邊洪基ハ反對ノ演說ヲナシ表決ノ結果動議ハ遂ニ否決セラレタリ

五月三十日陸軍省所管ノ續會ニ於テ湯淺治郎ハ甲號議案ニ繼續費二十五年
度砲臺建築費等既定ノ年割額ヲ引去リシハ不當ナリ又乙號議案ニハ該年割
額ヲ組込ミアリテ甲乙議案ニ金額ノ不同ヲ見ルハ穩當ナラサルヲ以テ甲號
議案ノ額ヲ乙號議案ノ額ト同一ニセンコトヲ政府ニ請求スルノ動議ヲ提出
セントテ左ノ如ク朗讀セリ

明治二十五年年度豫算追加案中東京灣砲臺建築費竝ニ兵器彈藥費ハ左ノ豫
算金額ニ對スル款項ヲ區分シ及要書等ヲ添へ更ニ議會へ提出センコト
ヲ政府ニ請求スヘシ

東京灣砲臺建築費

既定ノ繼續費ヲ併セ

四一四、八〇〇、〇〇〇

兵器彈藥費

既定ノ繼續費ヲ併セ

一、五六二、〇七五、二二〇

石田貫之助ハ贊成神鞭知常田中源太郎及政府委員渡邊大藏次官ハ反對ノ演
說ヲナセリ其渡邊大藏次官演說ノ趣旨ハ政府ノ見ル所ニ依レハ憲法第六十
八條ノ效力ニ依リテ繼續費豫算ハ成立セルヲ以テ直ニ執行セリ而シテ既ニ
一タヒ協贊ヲ經タルモノヲ再ヒ之ヲ編入スルノ必要ナシ又之ヲ編入セサレ
ハトテ懸念モナク不取締モナシ今諸君ノ安心ノ爲メニ之ヲ辯明セント欲ス
抑第一款砲臺建築費中東京灣砲臺建築費ニ六萬參千圓下ノ關紀淡海峽ニ
砲臺建築費ニ各拾萬圓ノ金額ハ協贊ヲ經タル如ク其金額ヲ検査院ニ通知シ
科目毎ニ整理スルモノ故ニ流用モ出來ス懸念モナシ是ノ如キ順序ナレハ今
又更ニ之ヲ附加スルノ必要ナシト云フニアリ

討論終結氏名點呼ノ末右動議モ亦否決セラレタリ

斯クテ陸軍省所管ニ於テハ第三款第四款ハ査定案ニ其他ハ總テ原案ニ可決セリ

次ニ海軍省所管第一款軍艦製造費ニ移ル大岡育造ハ委員會ノ結果ヲ報告ス其要ニ曰ク第一款軍艦製造費ハ最近軍艦ノ製造費用ニ照シ實費トノ權衡ヲ取リ修正シ第六款製鋼所設立費ハ主管廳ノ調査未タ完カラサルヲ以テ削除セリト

海軍大臣子爵樺山資紀ハ簡短ニ協贊ヲ求ムルノ演說ヲ爲シ政府委員海軍次官伊藤雋吉海軍主計總監本宿宅命ハ軍艦製造ノ忽セニスヘカラサル由ヲ説キ協贊ヲ求メ井上角五郎ハ査定案維持杉田定一尾崎行雄ハ削除ノ演說ヲナス反對論ノ要ハ政府ハ海軍ニ於ケル一定ノ方針ナキヲ以テ協贊スル能ハス

ト云フニアリ記名投票ノ結果第一款ハ削除セラレタリ

五月三十一日海軍省所管ノ續會ニ於テ多少討論ノ未査定案ノ如ク第六款製鋼所設立費ヲ削除セリ

文部省所管第二款震災豫防調査會設備費ニ至リ今井磯一郎ハ委員會ノ經過及結果ヲ報告ス其要ハ政府ノ考案ノ如キ組織ヲ以テ調査會ヲ起スハ奏效甚タ覺束ナシ且此會タル長年月ヲ要スルモノナレハ委員會ニ於テ勿々議決スルハ其當ヲ得スト云フノ二事ヲ以テ削除セリト云フニアリ政府委員文部次官辻新次ハ原案維持太田實早川龍介渡邊洪基津田眞道ハ原案贊成ノ演說ヲナス然レトモ衆議亦査定案ニ可決セリ

其他ノ款項及司法省所管第二款第二項第三項竝ニ遞信省所管第三款第三項第四項ハ査定案ニ其他ハ原案ニ可決シタリ

是ニ於テ歲出臨時部ノ逐項議ハ終了シ其合計ハ決議ノ結果ニ依リ異動ヲ生
スルカ故ニ其整理ヲ議長ニ委任セリ

次ニ歲入臨時部全體ハ歲出豫算議決ノ結果ニ依リ修正シ甲號議案ハ確定セリ
豫算乙號ノ會議ニ於テ内務省所管及陸軍省所管兵器彈藥費ハ查定案ニ其他
ハ原案ニ可決シ海軍省所管ハ削除セラレ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約
ヲ爲スヲ要スルモノ第十第十一第十二ハ查定案ニ其他ハ原案ニ明治二十五
年度大阪砲兵工廠特別會計歲入歲出豫算追加案ハ歲入第一款第二項ハ原案
ニ其他ハ查定案ニ可決セリ是ニ於テ乙號等總テ確定シ豫算ノ會議ハ終了シ
タリ

六月一日衆議院ハ其修正議決ニ係ル豫算追加案ヲ貴族院ニ送付セリ

貴族院ニ於テハ是ヨリ先キ五月七日委員四十五名ヲ選舉シ豫算委員ヲ組織

セリ其氏名左ノ如シ

- 伯爵 大原重朝
- 子爵 谷 干城
- 子爵 鳥尾小彌太
- 子爵 林 友幸
- 子爵 鍋島直彬
- 子爵 由利公正
- 子爵 岡部長職
- 子爵 堀田正養
- 子爵 松平信正
- 子爵 柳澤光邦

子爵 加納 久宜

子爵 關 博直

男爵 千家 尊福

永山 盛輝

山川 浩

男爵 金子 有卿

渡 正元

村田 保

長谷川 貞雄

濱 尾 新

前田 正名

南 鄉 茂光

武 井 守正

清 浦 奎吾

三 宅 秀

外 山 正一

富 田 鐵之助

大 澤 謙二

田 尻 稻次郎

古 市 公威

木 下 廣次

渡 邊 治右衛門

若尾逸平
 三木與吉郎
 小室信夫
 久保田眞吾
 吉田三右衛門
 鹿毛信盛
 田部長右衛門
 村上桂策
 山田莊左衛門
 桑田藤十郎
 渡邊甚吉

五月十六日
 ヨリ二十二日
 迄七日間
 停會

五月十日委員ハ委員長及副委員長ヲ左ノ如ク互選セリ

豫算委員長 子爵 谷 干 城
 同副委員長 子爵 林 友 幸

瀧口吉良
 五十嵐敬止

六月二日本案審査報告期限ヲ定ムル件ヲ院議ニ諮ヒ其期限ヲ四日マテトセシカ後更ニ延ヘテ六日マテトセリ

六月三日豫算委員會ニ於テ委員長子爵谷干城ハ豫算調査ノ方針ニ付左ノ二件ヲ宣告ス

- 一 議案ノ審議ハ便利上大藏省所管ノ部ヨリ始ムルコト
- 一 本委員會ハ衆議院ヨリ回付セラレタル議案ヲ本案トシ其傍ニ記入シタ

ル政府提出案^朱ハ参考トシテ議スヘキコト

六月五日豫算委員會ニ於テ委員南郷茂光ヨリ海軍省所管軍艦製造費ニ關スル修正動議竝ニ委員古市公威ヨリ文部省所管震災豫防調査會設備費ニ關スル修正動議ヲ提出シ悉皆可決ス依テ同日豫算委員長ハ貴族院議長ヘ左ノ如キ報告書ヲ提出セリ

衆議院ヨリ送付シタル豫算案及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルモノヲ審査スルニ明治二十五年度歲入歲出總豫算追加案甲號ニ

海軍省所管

第一款 軍艦製造費

金參千八百拾壹圓

第二項 二十五年度起業軍艦製造費

金參千八百拾壹圓

ヲ加ヘ文部省所管ニ

第二款 震災豫防調査會設備費

金四萬千四百五拾貳圓

第一項 器械費

金貳萬九千五百五拾圓

第二項 新營費

金壹萬千九百貳圓

ヲ加ヘ又乙號第五ノ次ニ

第六

歲出臨時部海軍省所管第一款軍艦製造費第二項二十五年度起業軍艦製造費

總額金貳百六拾五萬圓

内

金參千八百拾壹圓

明治二十五年度

金九拾六萬貳千百八拾壹圓五拾錢

明治二十六年度

金九拾四萬五千貳百貳拾九圓五拾錢

明治二十七年

金參拾六萬千五百七拾圓八拾五錢

明治二十八年

金貳拾九萬八千五百參圓參拾五錢

明治二十九年

金七萬六千貳百參圓八拾錢

明治三十年

金貳千五百圓

明治三十一年

ヲ加フルノ外衆議院修正議決案ノ如ク可決スヘキモノトス

六月六日政府ハ貴族院ニ向テ本案ノ至急議決ヲ要求セシヲ以テ直ニ其會議ヲ開キ豫算委員長子爵谷干城ハ豫算委員會決議ノ理由ヲ述フ其要ニ曰ク今日我國ノ海軍ハ固ヨリ不十分ナルモ而モ亦之ヲ擴張スルハ財政ノ許サ、ル所ナレハ少クモ現在ノ六万餘噸ノ軍艦ヲ維持スルハ必要ト認ムルヲ以テ軍

艦製造費ニ修正ヲ加ヘタリ是レ追々廢艦トナルモノヲ補フカ爲メナリ又我國ノ如キ殆ント地震國トモ稱スヘキ國ニ在リテハ政府ニ於テ十分取調ヲ爲スハ其義務ナリト認ムルヲ以テ文部省所管ナル震災豫防調査會設備費ヲ修正セシ所以ナリト

甲號議案ノ逐項議ニ移リ海軍省所管軍艦製造費ニ至リ子爵曾我祐準ハ議院ニ於テ款項ヲ挿入スルハ行政權ニ立入ルノ嫌アル旨ヲ述ヘ豫算委員ノ説明ヲ求ム子爵谷干城ハ假令ハ水雷設置トカ或ハ他ノ經費ヲ擅ニ設クルカ如キハ行政權ヲ犯スノ嫌アレトモ政府ノ意思ノ定レルモノニ對シ修正セシハ行政權ヲ犯スモノト大ナル逕庭アリ是レ修正說ノ可決セシ所以ナリト説明ス

甲號議案ハ多少討議ノ末逐項議ヲ終ヘ其他乙號議案等總テ豫算委員議決ノ

如ク可決確定セリ依テ衆議院ニ通知シ同意ヲ求メタリ

六月七日衆議院ニ於テ之ヲ會議ニ付セシカ曾禰荒助ハ議院ニ於テ豫算案中
新ニ款項ヲ插入スルノ權利アルヤ否ヤハ憲法上ノ大問題ナリ故ニ之レカ熟
考ヲ爲スカ爲メ本案議事ヲ九日迄延期セントノ動議ヲ提出シテ可決セリ

六月九日本案ノ議事ヲ開キシニ山田東次ハ凡ソ款項ノ組立ヲ爲スハ行政部
ノ特權ニシテ立法部ノ權限外ナリ故ニ貴族院ノ海軍文部兩省所管ニ款項ヲ
插入セシハ違法ノ決議ナリトテ左ノ先決問題ヲ提出セリ

明治二十五年年度歳入歳出總豫算追加案ニ對シ貴族院ニ於テ海軍省所管第
一款及文部省所管第二款ヲ更ニ插入シタルハ不合法ノ議決ナルヲ以テ本
院ハ之レカ回付ヲ受クヘキモノニアラス

右動議ヲ討論スル爲メ全院委員會ヲ開ケリ角田眞平尾崎行雄關直彦鳩山和

夫ハ贊成末松謙澄小西甚之助神鞭知常大岡育造井上角五郎ハ反對ノ演說ヲ
ナセリ反對者ノ說ハ貴族院ニ於ケル谷子爵ノ論ト贊成者ノ論ハ貴族院ニ於
ケル曾我子爵ノ說ト孰レモ大同小異ナリ討論未タ盡キサルモ委員會ノ定刻
ニ至リタルヲ以テ更ニ本會議ニ復シ渡邊洪基ノ反對演說アリタルノミニテ
記名投票ノ結果動議ヲ採用シ決議書ヲ添付シ貴族院ニ返付セリ

六月十日貴族院ニ於テ子爵谷干城ノ提出セシ左ノ緊急動議ニ依リ會議ヲ開
キ遂ニ之ヲ可決シ其決議書ヲ添へ更ニ衆議院ニ返付セリ

明治二十五年年度歳入歳出總豫算追加案ニ對シ本院ニ於テ海軍省所管第一
款及文部省所管第二款ヲ更ニ插入シタルハ不合法ノ議決ナルヲ以テ衆議
院ハ之カ回付ヲ受クヘキモノニアラスト衆議院ニ於テ議決ヲナシタルモ
本院ニ於テハ合法ノモノト確定ス依テ其通牒ヲ受領セス

然ルニ衆議院ハ之ヲ受領セス直ニ左ノ書面ヲ以テ貴族院ニ返送セリ
本日貴院ヨリ更ニ回付セラレタル明治二十五年豫算追加案ハ既ニ昨九
日本院ニ於テ其回付ヲ受ヘキモノニアラスト決議シタルモノニ付直ニ返
送ス

六月十一日貴族院ニ於テ三浦安ハ左ノ緊急動議ヲ提出シタリ

豫算議決權ニ關スル兩院ノ見解相背馳スル此ノ如キニ至リテハ憲法第四
十九條ニ據リ上奏シテ

聖明ノ親裁ヲ仰クノ外ナシ依テ上奏案起草委員九名ヲ選ヒ其選定ヲ議長
ニ委任ス

衆議之ヲ可決シ議長ハ左ノ九名ヲ指名ス

侯爵 黒田長成

子爵 谷 干城	子爵 由利公正	子爵 松平乘承	男爵 千家尊福	細川潤次郎	三浦 安	清浦奎吾	木下廣次
委員長	副委員長	委員長	副委員長	委員長	副委員長	委員長	副委員長
細川潤次郎	谷 干城	細川潤次郎	谷 干城	細川潤次郎	谷 干城	細川潤次郎	谷 干城

委員ハ更ニ委員長及副委員長ヲ互選スル左ノ如シ

上奏案起草委員ハ即時左ノ案ヲ具シテ之ヲ議長ニ提出ス議長ハ之ヲ會議ニ付シ直ニ可決セリ

貴族院議長臣茂韶誠恐誠惶貴族院ノ決議ヲ以テ恭ク

叡聖文武天皇陛下ニ上奏ス

本院ハ政府ヨリ提出シ衆議院ヨリ送付シタル明治二十五年年度歲入歲出總豫算追加案ヲ議スルニ當リ衆議院ノ削除シタル海軍省所管第一款軍艦製造費及文部省所管第二款震災豫防調査會設備費ノ兩款ヲ急要ノ歲出ナリト認メ憲法ニ依リテ與ヘラレタル協贊ノ權ニ依リ政府ノ原案ニ基キ衆議院ノ修正案ヲ修正シ議院法第五十五條ニ依リ衆議院ニ移シタリ抑豫算案ハ前ニ衆議院ニ提出セラル、ノ外憲法上豫算ニ對スル協贊ノ職權ニ於テ兩院ノ間ニ輕重スル所ナキヲ信シ又此職權ニ依テ修正ヲ行フニ當リ政府

ノ提出セル原案ノ款項ヲ復スルニ付テハ法律上何等ノ制限ナキヲ信ス是ヲ以テ本院ハ憲法ノ命スル職務ヲ盡シ且議院法ノ手續ヲ履ミ以テ衆議院ノ同意ヲ求メタリ然ルニ衆議院ハ更ニ之ヲ插入シタルハ不合法ノ議決ナルヲ以テ回付ヲ受クヘキモノニアラストシテ返付セリ本院ニ於テハ本院ノ議決ヲ合法ノモノト確信スルヲ以テ更ニ之ヲ衆議院ニ回付シタルニ衆議院ヨリ再應返付シ兩院ノ所見遂ニ相會フ能ハサルニ至レリ今憲法上ノ疑義ニ關シ兩院ノ所見互ニ相合ハス從テ憲法ノ進行ヲ現在及將來ニ妨クルノ懼アルニ於テ本院ハ謹テ狀ヲ具ヘ上奏シ仰テ

聖明ノ親裁ヲ待ツアルノミ臣恐懼ノ至ニ堪ヘス謹テ上奏ス

是ニ於テ貴族院議長ハ直ニ參内謁見ヲ請ヒ上奏書ヲ奉呈シタリ

六月十三日內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義ハ貴族院ノ上奏ニ對スル

左ノ勅諭ヲ傳達ス

勅諭

其院六月十一日附ノ上奏ノ件ハ憲法上ノ疑義ニ屬スルヲ以テ朕ハ之ヲ樞密顧問ニ諮詢シタリ樞密顧問ハ憲法第五十六條ニ依リ議決シテ上奏スルコト左ノ如シ

憲法上豫算ニ對スル貴族院及衆議院ノ協贊權ハ我帝國憲法第六十五條ニ依リ衆議院ハ貴族院ニ先チテ政府ヨリ豫算案ノ提出ヲ受クルノ外兩院ノ間ニ軒輊スル所ナキ者ナリ
故ニ後議ノ議院ハ前議ノ議院ニ對シテ何等羈束セラル、コトナク從テ前議ノ議院ニ於テ削除セル款項ヲ存留スルハ素ヨリ後議ノ議院ノ修正權内ニ屬スヘキモノトス但シ後議ノ議院ハ前議ノ議院ニ對シ議院法ノ

命スル所ニ依リ同意ヲ求ムルヲ以テ惟一ノ手續トスルノミ

朕ハ此ノ樞密顧問ノ議決ヲ採納シ其院ノ上奏ニ答ヘ之ヲ領知セシム依リテ貴族院ハ更ニ勅諭ヲ添ヘ本案ヲ衆議院ニ回付セリ

六月十四日衆議院ハ議事日程ヲ變更シ貴族院ノ回付ニ係ル豫算追加案ヲ議スルニ際シ稻垣示ハ先決問題トシテ左ノ動議ヲ提出セリ

本案ニ關シ議員中ニ收賄ヲナシ又ハ收賄セントシタル者アルヲ以テ其眞偽ヲ調査セシメンカ爲メ特別委員ヲ設ケテ之レカ審査ヲ付託スヘシ其選舉ハ各部ニ於テ之ヲ爲シ全體ニ付テ其結果ヲ通算スヘシ

本動議ハ可決セラレ午後五時ヲ期シテ特別委員ニ審査ノ結果ヲ報告セシムルノ委託ヲナシ本會議ヲ中止セリ

稻垣示提出緊急動議審査特別委員當選者ハ左ノ如シ

委員ハ委員長及理事ヲ互選ス其結果左ノ如シ

山田東次	未松謙澄	中村彌六	佐藤昌藏	渡邊洪基	元田肇	稻垣示	古莊嘉門	曾禰荒助
委員長								
山田東次								

理事 元田 肇

定刻ニ至リテ山田東次ハ委員長トシテ審査ノ經過及結果ヲ報告ス其大要左ノ如シ

委員會ハ稻垣君ノ陳述ヲ聽キ審査スルニ同君カ或議員カ民間ノ誘導ヲ受ケタルハ事實ナルカ如シト雖モ其他ハ誘導者ヨリ傳聞シタルト云フニ止リ證據甚タ不確實ナリト決定ス

是ニ於テ井上角五郎ハ左ノ動議ヲ提出セリ

本件動議提出者ハ事實ノ無根ナルモノヲ捏造シ事實ノ十分ナラサルモノヲ口實トシテ本院ノ體面ヲ汚スノ重キモノナリ依テ議院法竝ニ衆議院規則ニ據リ懲罰委員ニ付スルモノトス

但シ懲罰委員ハ午後七時以前ニ其結果ヲ報告スルモノトス

本動議ニ對シテハ贊否ノ兩論者アリシカ議場ノ趨勢ハ祕密會ニ於テ收賄事件動議ノ提出者タル稻垣示ヲシテ明ニ事實ヲ宣言セシメントノ說多數ヲ占メ遂ニ祕密會議ヲ開キタリ

祕密會議終ルヤ直ニ貴族院ヨリ回付セル豫算追加修正案ニ於ケル海軍省所管第一款軍艦製造費及文部省所管第二款震災豫防調査會設備費ノ會議ニ移リ全然之ヲ否決セリ

是ニ於テ衆議院ハ海軍省所管第一款及文部省所管第二款ニ就キ議院法ノ命スル所ニ依リ兩院協議會ヲ開クノ必要ヲ生セシヲ以テ直ニ十名ノ協議委員ヲ選舉ス其氏名左ノ如シ

杉田 定一
河野 廣中

衆議院委員ハ協議會議長ヲ互選ス其結果左ノ如シ

兩院協議會議長

渡邊 洪基

依リテ衆議院ハ兩院協議會ヲ開クコトヲ貴族院ニ請求シ且同院協議委員ノ

山田 東次
中村 彌六
島田 三郎
尾崎 行雄
安部 井磐根
渡邊 洪基
曾禰 荒助
大岡 育造

數八十名ニ決セシ旨ヲ通知セリ

貴族院ハ協議委員ノ選定ヲ議長ニ委任ス議長乃チ左ノ十名ヲ指名セリ

子爵 谷 干 城

子爵 林 友 幸

子爵 銅 島 直 彬

子爵 由 利 公 正

子爵 加 納 久 宜

男爵 千 家 尊 福

南 郷 茂 光

清 浦 奎 吾

富 田 鐵 之 助

田 尻 稻 次 郎

貴族院委員ハ協議會議長及副議長ヲ互選スル左ノ如シ

兩院協議會議長 子爵 谷 干 城

兩院協議會副議長 子爵 林 友 幸

斯クテ兩院協議委員ハ協議室ニ會シ抽籤ニ依リ衆議院協議會議長渡邊洪基
ハ兩院協議會議長席ニ著キ協議會ハ茲ニ開始セラレタリ貴族院委員ハ修正
說ヲ維持シ衆議院委員ハ削除說ヲ固持セシカ衆議院協議委員山田東次ハ折
衷說ヲ提出シ雙方ノ贊成ヲ得テ遂ニ本會ノ結了ヲ見ルニ至レリ山田東次ノ
說ハ左ノ如シ

衆議院ハ海軍省所管第一款文部省所管第二款トモ削除シタル以上ハ徹頭
徹尾其說ヲ主張シタキモ斯クテハ協議ノ纏マルヘキ見込ナキヲ以テ貴族

院ノ建議ニ依リテ成立セル文部省所管第二款ヲ復活シ海軍省所管ノ部ハ之ヲ削除スルコトニ賛成ヲ請ハレ

兩院協議會散會スルヤ貴族院ニ於テハ協議會議長子爵谷干城衆議院ニ於テハ協議會議長渡邊洪基報告ノ大要ハ左ノ如シ

兩院協議會ニ於テ明治二十五年年度歳入歳出總豫算追加案中海軍省所管第一款ハ之ヲ削除シ文部省所管第二款ハ之ヲ存留スルコトニ議決セリ

衆議院議長星亨ハ兩院協議會ノ成案ヲ院議ニ諮ヒタルニ全會一致ヲ以テ之ヲ可決シ直ニ之ヲ貴族院ニ送付セリ

貴族院モ亦之ヲ會議ニ付シ子爵鳥尾小彌太ノ反對演說アリタルノミニテ之ヲ可決セリ

是ニ於テ追加豫算ハ兩院ヲ通過シタリ其結果一般會計ニ在リテハ歳入歳出

各要求額貳百八拾壹萬五千百拾貳圓八拾八錢參厘ハ百八拾九萬八千八百七圓拾五錢七厘ニ修正セラレ實ニ九拾壹萬六千參百五圓七拾貳錢六厘ノ削減トナリ特別會計ニ在リテハ歳入歳出各要求額六拾四萬四千四百拾六圓七拾六錢壹厘ハ五拾萬九千五百六拾九圓貳拾六錢五厘ニ修正セラレ實ニ拾參萬四千八百四拾七圓四拾九錢六厘ノ削減トナレリ

六月二十日明治二十五年年度歳入歳出總豫算追加並明治二十五年年度大阪砲兵工廠特別會計歳入歳出豫算追加及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件ハ本日ヲ以テ公布セラレタリ

第七章 震災竝ニ水害費事後承諾ヲ求ムル件

第一節 衆議院

第三回帝國議會ノ開會中ニ於テ政府ハ憲法第六十四條第二項ニ依リ岐阜愛知二縣震災費竝ニ愛知岐阜富山福岡四縣水害費ニ係ル豫算外支出ニ對シ事後承諾ヲ求メタリ

岐阜愛知二縣下震災救濟及河川堤防工事費明治二十四年度豫算外支出ノ件

一金貳百貳拾五萬圓 明治二十四年度豫算外支出額

内

金百五拾萬圓 岐阜縣震災救濟及河川堤防工事費

金七拾五萬圓 愛知縣震災救濟及河川堤防工事費

本案ハ明治二十五年五月六日衆議院ニ提出セリ蓋シ一タヒ前期議會ニ提出シタルモ議決ニ至ラサリシヲ以テ更ニ提出セシモノニテ即チ政府カ曩ニ緊急勅令ヲ以テ左ノ如ク支出シタルモノナリ

朕岐阜愛知二縣下震災地方人民ノ非常ナル不幸ヲ救済スルカ爲メニ又破壊セル河川堤防ノ工事緊急ヲ要スルカ爲メニ内閣ノ上奏ニ依リ茲ニ臨時支出ノ件ヲ裁可ス

御 名 御 璽

明治二十四年十一月十一日

内閣總理大臣兼大藏大臣 伯爵松方正義
文 部 大 臣 伯爵大木喬任
外 務 大 臣 子爵榎本武揚

遞 信 大 臣 伯爵後藤象次郎
海 軍 大 臣 子爵樺山資紀
農 商 務 大 臣 陸奥宗光
陸 軍 大 臣 子爵高島綱之助
司 法 大 臣 子爵田中不二麻呂
内 務 大 臣 子爵品川彌二郎

勅令第二百五號

一金百五拾萬圓

岐 阜 縣

一金七拾五萬圓

愛 知 縣

右金額ハ非常要急ノ需用タルニ依リ明治二十三年度歲計剩餘金ヨリ支出ス

五月九日本案ノ會議ヲ開クニ當リ内務大臣伯爵副島種臣ハ左ノ演說ヲ爲セ
 愛知岐阜兩縣下震災救濟竝ニ土木工事ノ件ニ就キ事後承諾ヲ求ム昨年兩
 縣下ノ震災タル殊ノ外ナリシコトハ諸君ノ既ニ知ラル、如クニシテ不幸
 ニモ議會ノ開期ヲ待ツ能ハス焦眉ノ必要ニ迫ラレ豫算外ノ支出ヲナシタ
 リ公明ナル諸君ノ觀察ヲ以テ承諾ヲ與ヘンコトヲ希望ス
 議事ニ移リ本案審查特別委員ヲ左ノ如ク各部ニ於テ選舉セリ

- 犬 養 毅
- 狩野揆一郎
- 高田早苗
- 伊藤大八

- 折田兼至
- 熊谷孫六郎
- 鈴木重遠
- 石田貫之助
- 齋藤珪次

此日齋藤珪次外二名ハ三十三名ノ贊成ヲ得テ本案事件ニ對シ左ノ如ク政府
 ニ向テ質問セリ

第二期議會ニ於テ岐阜愛知兩縣震災救濟及河川堤防工事費支出承諾ノ件
 ハ政府ヨリ緊急議案トシテ議會ニ提出シ議會ハ之ヲ委員會ニ附シ審查ニ
 從事シタルニ其疑ヲ容ルヘキノ事頗ル多キヲ以テ政府ニ向テ説明ヲ求ム
 ルノ間自然時日ヲ經過シ其審查漸ク成リ既ニ本議ニ附セントスルヤ政府

ハ議會ニ對シ此ノ如キ緊急ノ議事ヲ緩慢ニ附シタリト云ヒ此ヲ以テ其事由ノ一トナシ議會ヲ解散シタリ今ヤ新議會ノ開クルニ當リ政府ハ震災地救助ニ關スル緊急支出ノ事後承認事件トシテ劈頭第一ニ提出セラレタリ茲ニ右議案ノ議決ヲ緊急トスレハ先此事件ニ就キ緊急質問ヲ爲スハ必要アリ是レ此質問書ヲ出スノ主意ナリ當局大臣本院ニ出席シテ速ニ答辯アラシコトヲ望ム

右議院法第四十八條ニ據リ之ヲ提出ス

質問條項

一 政府カ昨二十四年十一月緊急勅令ヲ以テ愛岐兩縣下へ下渡セシ震災救濟及河川堤防費ハ非常急施ヲ要スル趣意ナリシカ果シテ豫期ノ如ク(政府委員ノ答辯ニ據レハ本年三月末乃至四月始迄ニ竣工ノ見込)

土功ヲ終リタルヤ又既ニ支出シタル金圓ノ費目ハ如何

二 震災土木補助費モ亦同シク急施ヲ要スル旨ハ政府ノ明言スル所ナリシカ之ヲ縣地ニ於テ銀行會社等ニ定期預ト爲シ利子ヲ收入スル程ノ長年月ヲ繼續シテ支出スルモノナリシヤ

三 震災土木補助費ノ支出方法ヲ縣會ノ議定ニ附セス故テニ常置委員ノ急施會ニ於テ議定セシメタルハ何故ナルヤ

四 震災救濟費支出ニ於テ其支出高ハ兩縣被害ノ輕重ト正反對ノ結果アルハ如何

五 震災土木補助費支出ニ於テ其支出高各郡村被害ノ輕重ト正反對ノ結果アルハ如何

六 震災費ヲ以テ支辨スヘキ復舊工事ノ設計目論見ハ何時調査濟トナリ

シヤ又政府カ第二議會ニ提出セシ震災土木費參考書ナルモノハ之ヲ
實地ニ施行シテ相違スル所ナカリシヤ

七 政府ハ復舊工事ニ名ヲ藉テ新設増工若クハ模様替等ノ工事ヲ爲サシ
メタルハ如何

八 震災土木費ヲ正當ニ支出セハ必スヤ殘餘ヲ生スヘシ果シテ然ラハ政
府ハ之ヲ如何ニ處理セントスルヤ

五月十日審査特別委員ハ左ノ如ク委員長及理事ヲ互選シタリ

委員長 鈴木重遠

理事 高田早苗

理事 齋藤珪次

五月十二日委員會ニ於テ高田早苗ハ本案審査順序ニ關シ左ノ三項ヲ提出

シ委員會ハ之ヲ採用ス

第一 憲法上承諾ヲ與フヘキモノナルヤ否ヤ

第二 豫算外ノ支出ヲ爲シタルハ當時ノ情形ニ徴シテ緩急其當ヲ得タ
リト認ムルヤ否ヤ

第三 支出金ハ實際適當ニ處理セラレタリト認ムルヲ得ルヤ否ヤ

高田早苗ハ又本案議事ノ進行ニ付意見ヲ述フ其要ニ曰ク本員ノ提出シタ
ル第一第二ノ事實如何ニ付テハ既ニ前期ノ同案委員會カ精細ノ調査ヲ遂
ケ其質問及政府委員ノ答辯等ハ當時ノ速記録ニ徴スレハ其要領ヲ知ルニ
難カラスト思フ故ニ今日又々其跡ヲ踏襲シテ同様ノ事ヲ繰返シ政府委員
へ質問ヲ起スカ如キハ寧ろ煩擾ノ嫌ナキニアラサレハ此等ハ總テ該速記
録ニ譲リテ先ツ第三ノ事實ヲ調査シ速ニ論點ヲ定メテ報告ヲ終ルヘシ

五月十六日
ヨリ二十二
日迄七日間
停會

委員會ハ此意見ヲ採用シ專ラ第三ノ點ノミニ關シ審査スルコトニ決定セ
リ
六月二日委員會ハ左ノ決定ヲナシ審査特別委員會ヲ閉チタリ
政府カ岐阜愛知二縣下震災救済及河川堤防工事費明治二十四年度豫算
外支出ノ件ヲ憲法第六十四條第二項ニ依リ承諾ヲ求メントスル理由ハ
愛岐兩縣下客年ノ震災非常ノ慘毒ヲ極メタルヲ以テ一方ニ於テ罹災人
民ノ困苦ヲ救済シ一方ニ於テ融雪出水ノ期ニ先チ堤防修築ノ工事ヲ成
就スルノ必要アリ而シテ災餘凋弊スル人民固ヨリ其負擔ニ堪ヘサルカ
故ニ政府當然ノ義務トシテ國庫ヨリ費用ノ大部分ヲ支出セサルヘカラ
ス依テ岐阜縣ヘ百五十萬圓愛知縣ヘ七拾五萬圓豫算外支出ヲ爲シ憲法
第六十四條第二項ニ依リ帝國議會ノ承諾ヲ求ムト云フニ外ナラス本委

員會熟ラ此件ヲ審査シタルニ憲法上及事實上ノ理由ニ基キ承諾ス可カ
ラサルモノト決定セリ

憲法上ノ理由 明治二十三年度ノ剩餘金ヲ支出シ憲法第六十四條第
二項ニ依リ承諾ヲ求メタルハ不當ナリ何トナレハ此條項ハ憲法第六
十九條ノ規定セル豫備費支出ノ場合ニ限り憑據スヘキモノナレハナ
リ
豫備金以外ノ支出ハ行政官ノ專斷ヲ以テ爲シ得ヘキニアラス憲法第
六十九條ニ豫備費ヲ設クヘシト規定シタルハ其範圍内ニ於テ行政官
臨時ノ支出ヲ許シ後日帝國議會ノ承諾ヲ求メシムルノ精神ナルヤ明
ラカナリ憲法第六十四條ニ國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議
會ノ協賛ヲ經ヘシトアリ豫備費以外ノ支出ハ總テコノ箇條ニ依ラサ

ルヘカラス明治二十三年度剩餘金ヲ行政官ノ專斷ヲ以テ支出セルハ豫備費設置ノ精神ニ背キ憲法第六十四條ノ本文ニ違反スルモノナリ

事實上ノ理由 事實上ヨリ審査スルニ震災ノ救済河川堤防ノ工事ハ罹災地方地ノ能ク負擔スヘキモノニアラス國庫ノ補助固ヨリ已ヲ得スト雖モ議會ノ協賛ヲ待タス勅令ヲ以テ緊急ノ處分ヲ爲スノ必要無しト斷定セサルヲ得ス何トナレハ

勅令第二百五號ノ發布ハ明治二十四年十一月十一日ニシテ第二期議會ノ召集ハ同月二十二日ナリ震災ノ救済及堤防ノ工事ヲ僅ヤ十餘日間猶豫スル能ハストイフハ本委員會ノ解シ難キ所ナリ

政府委員ノ答辯ニ曰ク議會開會ニ至ルマテ十日間ヲ猶豫スル能ハサ

リシハ職トシテ震災救済ノ迅速ヲ要スルニ由ルト然レトモ震災救済ニ充ツル費用ハ支出金額中貳拾萬圓ノ豫算ナリシコト政府委員ノ答辯ニヨリテ明瞭ナリ而シテ當時國庫ニ凡參拾萬圓ノ豫備費ヲ殘セリ政府ハ何カ故ニ暫クコノ豫備費ヲ以テ救済ノ費用ニ充テ議會ノ開會ヲ待タサリシカ

又曰ク政府ハ豫備費ノ殘額ヲ以テ富山福岡兩縣ノ土木費補助ニ充テタルカ故ニコレヲ震災救済ノ費用ニ供スル能ハサリシナリト然レトモ愛岐震災ノ救済及堤防工事ニ關スル勅令ハ十一月十一日ニ出テ富山福岡兩縣ニ關スル土木費補助ノ勅令ハ反ツテ同月十三日ニ出テタリコレニ依リテ察スレハ勅令第二百五號發布ノ當時ハ富山福岡二縣土木費補助ノ事未定ナリシト謂ハサル可ラス

且震災救済ノ費用モ亦悉ク迅速ナルヲ要セサリシコト政府ヨリ回送セル救済費仕拂豫算概略ナルモノニ依リテ明白ナリ救済費ノ中岐阜縣ニ配當セル分ノ如キ實ニ明治二十四年十一月二十二日ヨリ本年五月十六日ニ涉リテ仕拂ヒタルモノニシテ總額拾萬圓ノ中五萬五千圓餘ハ五月九日ニ至リテ始テ一般配當ヲ爲セリ而シテ今尙未拂ノ金額貳千八百餘圓アルニ依リテ推考スレハ救済費ノ支出必シモ悉皆迅速ヲ要シタルニアラスト謂フヘシ

又曰ハン堤防工事モ亦緊急ナラサリシニアラスト然レトモ第二期議會開會ノ後則工事費支出ノ後十數日ヲ經過セルモ未著手ノ工區尙ホ甚タ多カリシ事實アリ況ンヤ議會開會ノ後費用ヲ支出スルモ工夫ヲ増シ工事ヲ督促セハ融雪出水ノ期ニ先チ堤防修築ヲ成就スルコト敢

テ難カラサリシニ於テオヤ

以上ノ理由ニ依リ本委員會ハ愛岐兩縣震災救済及河川堤防工事費明治二十四年度豫算外支出ノ件ヲ承諾ス可ヲサルモノト決定ス

五月二十八日開會ニ先チ議長ハ書記官長ヲシテ岐阜愛知兩縣震災費ニ關スル齋藤珪次外二名ノ質問ニ對シ五月二十六日付ニ係ル政府ヨリノ答辯書ヲ左ノ如ク朗讀セシム

一勅令第二百五號ヲ以テ支出シタル岐阜愛知兩縣河川堤防工事ハ概ネ豫期ノ如ク落成シ僅カニ護岸及樋管等ノ幾部分ヲ殘スノミ其工費ハ三月三十一日迄ニ竣工シタル部分ニ對シテ支出スヘキ金額及未成工事ニシテ竣工ノ歩合ニ應シテ拂出シタル金額左ノ如シ

岐阜縣

金六拾壹萬千四百參拾四圓拾六錢壹厘	堤防費
金六萬六千八百五拾四圓貳拾七錢壹厘	護岸費
金貳拾貳萬參千六百四拾壹圓貳拾參錢參厘	樋管費
金壹萬五千五百參拾九圓五拾四錢八厘	雜費
合計金九拾壹萬七千四百六拾九圓貳拾壹錢參厘	

愛知縣

金貳拾八萬六千六拾圓七拾八錢六厘	堤防費
金拾六萬八千百參拾四圓八拾壹錢八厘	護岸費
金七萬貳千七圓拾七錢	樋管費
金壹萬四千六百五拾貳圓七拾八錢壹厘	雜費
合計金五拾四萬八百五拾五圓五拾五錢五厘	

救濟費ハ愛岐兩縣共ニ各拾萬圓ト定メテ之ニ充テ其費目ハ左ノ通ニテ
 毫モ殘餘アルコトナシ

岐阜縣

金貳萬九千貳百九拾六圓貳拾貳錢六厘	治療諸費
金七萬七百參圓七拾七錢四厘	救助費
合計金拾萬圓	

愛知縣

金四千參百五拾貳圓拾九錢貳厘	治療諸費
金九萬五千六百四拾七圓八拾錢八厘	救助費
合計金拾萬圓	

二震災土木補助費ハ地方稅爲替方ノ命令ト一般之ヲ銀行ニ預ケ入相當抵

當ヲ徴シ其支出ヲ要スル毎ニ之ヲ拂出サシム但其事業整頓迄ハ數月ヲ要スルコト當然ナレハ隨テ其保管モ亦數月ニ渉ルト雖モ定期預トナシ竝ニ利子ヲ付スルコトナシ

三震災土木補助費ノ支出ヲ常置委員ノ急施會ニ付シタルハ職權上知事ニ於テ其事件急施ヲ要スト認メタルニ外ナラス

四震災救濟費ハ第一ノ末段ニ掲ケタル區別ニヨリ施行シタルモノニシテ愛知岐阜兩縣被害ノ輕重ニ反對ノ結果ナシ

五最初大體ニ就テ概算目論見ヲ爲シ更ニ實地ニ就キ精密ノ施工目論見ヲ爲シ以テ工費額ヲ定メタルカ故ニ各郡村被害ノ輕重ニ相應セサルモノナシ

六兩縣ニ於テ震災土木補助費ノ施工目論見ヲ了ヘシハ岐阜縣ハ三月三十

一日愛知縣ハ四月十八日ナリ(名古屋市ヲ除ク)又土木費參考書ハ最初ノ概算目論見ヲ擧ケタルモノニ付其施工目論見ヲ爲シ工事ヲ實施スルニ方リテハ素ヨリ多少ノ差異アルヲ免カレス

七工事ハ復舊ヲ目的トシ施行セリ尤モ舊形ニ依リ修繕スルヨリ新築若クハ改築スル方却テ費用ヲ減シ或ハ成功ヲ速カニシ又ハ地形變換ノ爲メ舊形ニ依リ施行シ難キモノ等已ムヲ得サルモノハ其位置ヲ轉シ又ハ之ヲ新築或ハ改築セシム其他有志者若クハ關係町村ノ協議ヲ以テ工費ヲ支出シ舊形ノ變更ヲ望ム者ハ其實際利益アリト認ムルモノニ限り其請ヲ許シ施行セシメ震災土木補助費ヨリハ其復舊ニ要スル金額ノミヲ支出セリ

八震災土木補助費ハ固ヨリ正當ニ支出セリ而シテ損害ノ現況ヲ見ルニ當

初概算目論見調製ノ時ニ比シテ更ニ大ナリト認ム故ニ震災土木補助費ハ殘餘ヲ生セサル見込ナリ

朗讀終リ政府委員内務次官白根專一ハ答辯ノ趣旨ヲ敷衍シ數時ニ涉リ又齋藤珪次工藤行幹ノ質問ニ對シ答辯アリタルノミ

六月六日本案ノ會議ヲ開キ委員長鈴木重遠ハ審査ノ經過及結果ヲ報告ス其旨趣一ニ委員會ニ於ケル決議ノ如シ次テ内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義ハ左ノ演說ヲ爲ス

諸君本問題ニ關スル委員長ノ報告ニ對シテ政府ノ所見ヲ茲ニ明言スヘシ凡ソ歳出ハ憲法ノ規定ニ依ルヘキハ通例ナレトモ憲法ニ於テハ非常又ハ臨時必要ノ場合ニ限り豫算超過又ハ豫算外支出ヲ爲シタルトキハ豫備金ノ範圍内ナルト否トヲ問ハス總テ後日ニ帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

トノ條件ヲ設ケタル外豫備金ノ範圍内ナレハ支出ヲ許シ否ラサレハ支出ヲ許サストノ明文ナシ今本大臣ハ專ラ實際上ヨリ説明ヲ加ヘンニ實ニ客年罹災地方人民ノ生命財産ハ其危キコト一髮千鈞ヲ引クカ如ク又水害豫防ノ工事モ焦眉ノ急ニ迫リシモノニテ當時慘酷惻怛ノ感覺ハ今尙ホ諸君ノ記憶ニ留マルナラム其慘狀ノ酷ナル遠ク數千百里ノ海外諸國スラ憐憫ノ意ヲ表シ本大臣ノ如キ一念爰ニ至ル毎ニ痛悼ニ堪ヘス然ルニ人情ハ日ヲ隔テ月ヲ經ルニ從ヒ其感覺次第ニ輕薄ニ赴クヲ常トス然レトモ諸君ニ於テハ斯ノ如キコトナキハ本大臣ノ固ク信シテ疑ハサル所ナリ

政府ハ固ヨリ人民ノ生命財産ヲ保護スルノ義務ヲ有ス危急前述ノ如キ場合ニ於テ國庫ニ相當ノ剩餘金ヲ積ミツ、袖手傍觀スルカ如キ豈ニ政府ノ爲スヘキ所ナラムヤ政府カ憲法上執ル所ノ見解ハ此ノ如クニシテ議會モ

亦承諾ノ義務アリト確信ス尤モ諸君ハ其正當トスル解釋ヲ取り相當ノ順序ニ由ルハ諸君ノ權内ニアレトモ政府モ亦其所見ニ依リ憲法解釋ノ權利アルカ故ニ敢テ議院ノ議決ニ依リ其所見ヲ變更スルモノニアラサルコトヲ爰ニ斷言ス

次テ政府委員大藏次官渡邊國武ハ内閣總理大臣ノ演說ヲ敷衍シテ曰ク審査特別委員ノ承諾ス可カラストスル理由ハ第一ニハ憲法上ノ理由第二ニハ事實上ノ理由ナリ第一ニ憲法第六十四條第二項ニ依リ承諾ヲ求ムルハ憲法第六十九條ニ規定セル場合ニ限ル云々トアルモ憲法第六十四條第二項ハ事後承諾ヲ求ムト云フニ過キス憲法第六十九條ハ豫備費ヲ設クト云フニ過キス畢竟各別ノ條項ニテ憲法第六十九條ノ金額ニ非ラサレハ憲法第六十四條第二項ノ手續ヲ履ム能ハスト云フニ非ラス故ニ政府ハ憲法第六十九條ニ依ラ

スシテ支出スルモ憲法ニ違反セシモノト言フ可カラス第二ニ緊急處分ヲ爲スノ必要ナカリシト言フモ國民保護ノ責ニ任スル政府カ彼カ如キ稀有ナル大慘事ヲ忽諸ニ附シテ可ナランヤ此ニ由リ之ヲ觀レハ政府ハ憲法ニモ抵觸セス事實上モ亦タ已ムヲ得サルモノト云ハサル可ラス惟タ諸君ノ多數ハ承諾ヲ與ヘラレンコトヲ希望スト

是ニ於テ質問スルモノ甚タ多シ農商務大臣河野敏鎌政府委員内務次官白根專一、大藏次官渡邊國武、交モ之カ答辯ヲナセリ
角利助ハ左ノ動議ヲ提出シタルニ遂ニ消滅セリ

本案ノ決議ヲナスニ先チ憲法第六十四條第二項ニ依リテ金額ヲ支出シタルハ憲法ニ背反スルモノナルヤ否ヤヲ決定スヘシ

是ヨリ進ンテ本案ノ討論ニ移リ安部井磐根、大野龜三郎ハ承諾狩野揆一郎、

山田東次、新井章吾ハ不承諾ノ辯論アリシモ記名投票ノ結果承諾ヲ與フルニ決シ本案ヲ貴族院ニ送付セリ

愛知岐阜富山福岡四縣土木費補助明治二十四年度豫算外支出ノ件

一金百拾六萬四千六百八拾貳圓九拾六錢六厘 愛知縣震災費補助

一金貳百八萬千五百五拾四圓六拾七錢 岐阜縣震災費補助

一金六拾七萬六千參百五拾四圓九拾九錢 富山縣水害費補助

一金參拾五萬參千九百貳拾八圓拾壹錢四厘 福岡縣水害費補助

本案モ岐阜愛知震災費ト同シク明治二十五年五月六日衆議院ニ提出セリ即チ政府ハ曩ニ緊急勅令ヲ以テ左ノ如ク支出シタルモノナリ

朕茲ニ愛知岐阜富山福岡四縣土木費補助トシテ明治二十四年度豫算外支

出ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年十二月二十六日

内閣總理大臣兼大藏大臣	伯爵松方正義
文 部 大 臣	伯爵大木喬任
外 務 大 臣	子爵榎本武揚
遞 信 大 臣	伯爵後藤象二郎
海 軍 大 臣	子爵樺山資紀
農 商 務 大 臣	陸奥宗光
陸 軍 大 臣	子爵高島鞆之助
司 法 大 臣	子爵田中不二齋

内務大臣 子爵品川彌二郎

勅令第二百四十七號

愛知岐阜富山福岡四縣ノ土木費補助ニ充ツル爲メ左ノ金額ヲ支出ス

一金百拾六萬四千六百八拾貳圓九拾六錢六厘 愛知縣震災費補助

一金貳百八萬千五百五拾四圓六拾七錢 岐阜縣震災費補助

一金六拾七萬六千參百五拾四圓九拾九錢 富山縣水害費補助

一金參拾五萬參千九百貳拾八圓拾壹錢四厘 福岡縣水害費補助

五月九日本案ノ會議ニ先チ内務大臣伯爵副島種臣ハ左ノ演說ヲ爲ス

愛知岐阜富山福岡四縣ノ洪水ニ付テハ政府ハ悲ムヘクモ議會ノ解散後已

ムヲ得ス豫算外ノ支出ヲ爲シタリ依テ今日其事後承諾ヲ求ム

本案モ審查特別委員ニ付託スヘキモノナルヲ以テ其審查委員ヲ選舉セシニ

左ノ九名當選セリ

色川三郎兵衛

工藤行幹

岩崎萬次郎

兒玉仲兒

岡田孤鹿

齋藤珪次

加藤政之助

森本藤吉

河島醇

五月十日委員ハ委員長及理事ヲ互選セシカ其結果ハ左ノ如シ

五月十六日
ヨリ二十二
日迄七日間
停會

委員長

河島 醇

理事

兒玉 仲兒

理事

加藤政之助

六月三日委員會ハ憲法第六十四條第二項ハ剩餘金ヲ支出スルヲ政府ニ許セルモノニ非ラスシテ憲法第六十九條ニ規定シタル金額ノ支出ヲ云フナリ故ニ政府ニ於テ本案ノ事後承諾ヲ求メタルハ不合法ナリトノ趣旨ニテ承諾ヲ與ヘサルコトニ議決シ閉會セリ

六月七日本案ノ會議ヲ開キ委員長河島醇ハ審査ノ經過及結果ヲ報告ス其大要ハ富山福岡二縣ニ係ル土木費補助ハ正當ノ手續ヲ經タルニ依リ政府ニシテ合法ノ要求ヲ爲スニ於テハ承諾ヲ與フルニ躊躇セサルモ愛知岐阜二縣ニ於ケル土木費補助ハ政府ニ於テ假令合法ノ要求ヲ爲スモ岐阜愛知二縣震災

費ト同シク其支出方正當ノ手續ヲ經サルヲ以テ遺憾ナカラ政府ノ要求ノ如ク承諾ヲ與フル能ハスト云フニアリ本案ニ於ケル贊成論者ニハ牛場卓藏アリ反對論者ニハ加藤政之助齋藤珪次アリシカ記名投票ノ結果院議ハ承諾ニ決シ本案ヲ貴族院ニ送付セリ

第二節 貴族院

明治二十五年六月六日岐阜愛知二縣下震災救濟及河川堤防工事費明治二十四年度豫算外支出ノ件承諾ノ上衆議院ヨリ之ヲ本院ニ送付セリ

六月七日政府ハ至急議決ヲ要求セシヲ以テ本案ノ會議ヲ開ク政府委員大藏次官渡邊國武ハ承諾ヲ求ムル旨ヲ辯スル左ノ如シ

客年十月岐阜愛知ニ起リシ震災ハ非常ノモノニシテ生命財産ノ損害甚クシク加之木曾川堤防ノ如キ百里餘ノ破壊ヲ生セシニヨリ政府ニ於テモ已

ムヲ得ス臨時支出ヲ取計ヒタルモノニテ即チ爰ニ承諾ヲ求ムル所以ナリ
而シテ當時ノ實情實況ハ諸君ノ熟知スル所ナレハ暇ヤノ辯ヲ要セス請フ
承諾ヲ與ヘヨ

院議ハ本案審査特別委員ノ選定ヲ議長ニ託シ議長ハ左ノ九名ヲ指名セリ

侯爵 黒田長成

子爵 宋戸璣

子爵 仙石政固

細川潤次郎

三浦安

清浦奎吾

木下廣次

渡邊甚吉

五十嵐敬止

六月八日委員ハ委員長及副委員長ヲ互選ス其結果左ノ如シ

委員長 侯爵 黒田長成

副委員長 細川潤次郎

六月九日委員會ヲ開キ特別委員ト政府委員トノ間ニ問答アリ結局總起立
ニテ承諾ヲ與フルニ決シ委員長ハ議長ニ向ツテ本案ハ承諾スヘキモノト
審査議決セル旨報告セリ

六月十日本案ノ會議ヲ開キ委員長ハ審査ノ經過及結果ヲ報告ス其趣旨ニ
政府ノ意見ノ如シ子爵鳥尾小彌太ハ本案憲法上ノ解釋ニ付キ反對ノ意見ヲ
述ヘ小畑美稻及政府委員大藏次官渡邊國武ハ之ヲ駁シ討論終結本案承諾ニ

決シタリ

明治二十五年六月七日愛知岐阜富山福岡四縣土木費補助明治二十四年度豫算外支出ノ件承諾ノ上衆議院ヨリ本院ニ送付セリ

六月八日政府ハ至急議決ヲ要求セシヲ以テ本案ノ會議ヲ開キ前案審査特別委員ニ付託シ審査セシムルコト、セリ

六月九日委員會ヲ開キ總起立ニテ承諾ヲ與フルニ決シ委員長ハ本案ハ承諾スヘキモノト審査議決セシ旨ヲ議長ニ報告セリ

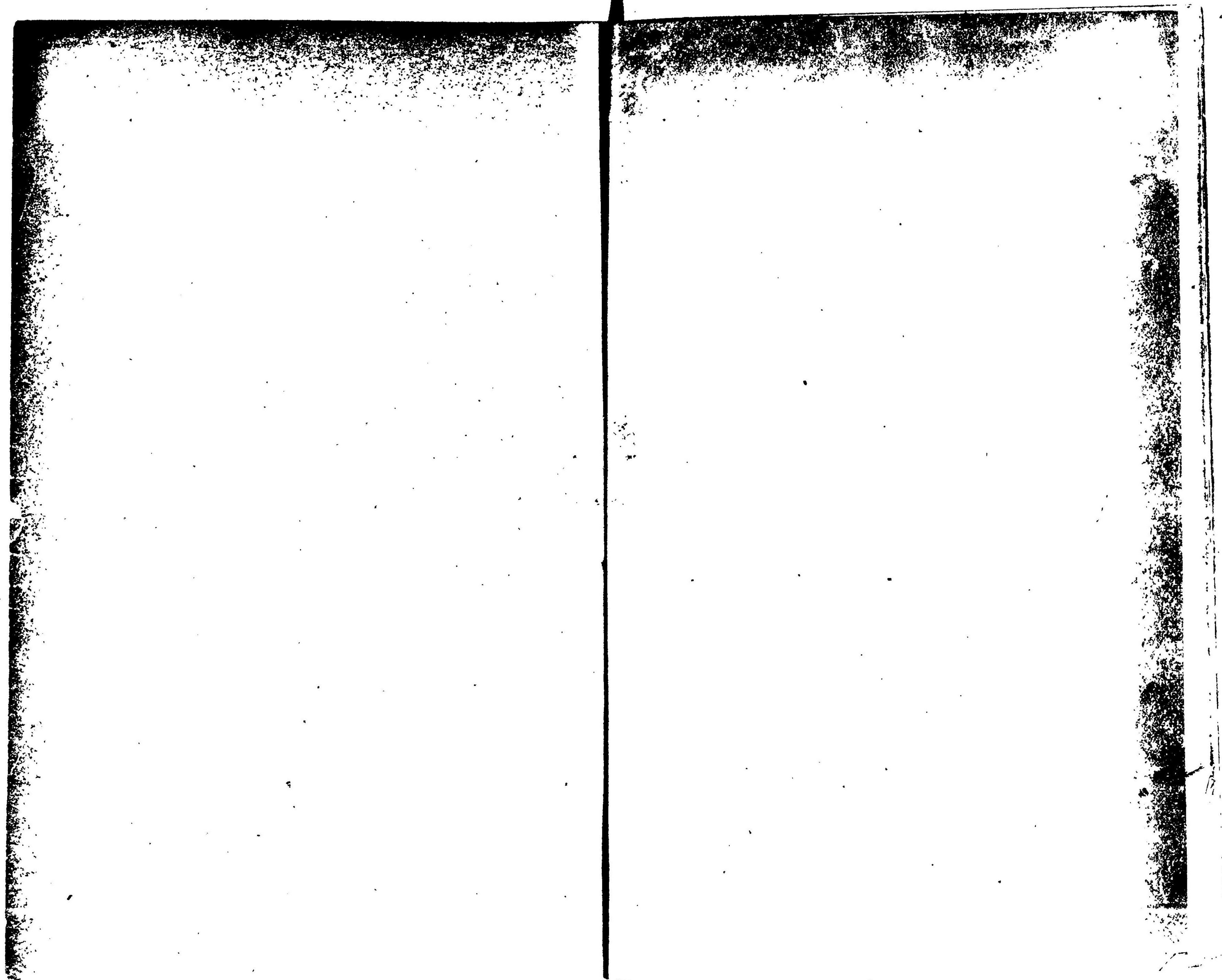
六月十日本案ノ會議ヲ開キ委員長侯爵黒田長成ハ本案ハ岐阜愛知震災費ト同一ノ事由トシテ審査セシ旨報告ヲナシタル後直チニ本案承諾ニ可決セリ

26/7/34

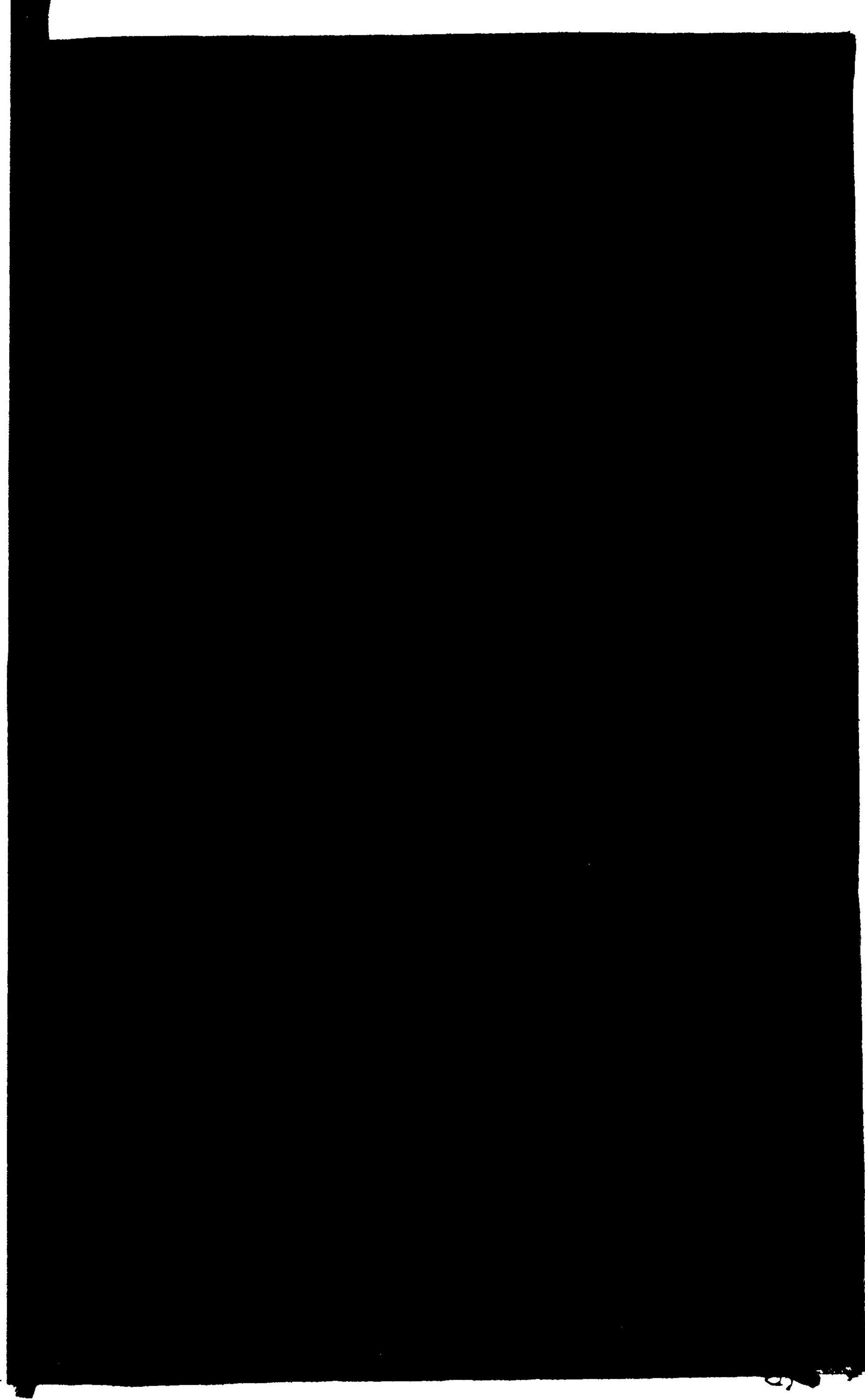
明治二十八年十一月十八日印刷
明治二十八年十一月二十二日發行

大藏省
印刷者 印刷局

9
402



9
402



040773-001-9

9-402

帝国歳計予算史

大蔵省主計局

M27-42

BDE-0495



